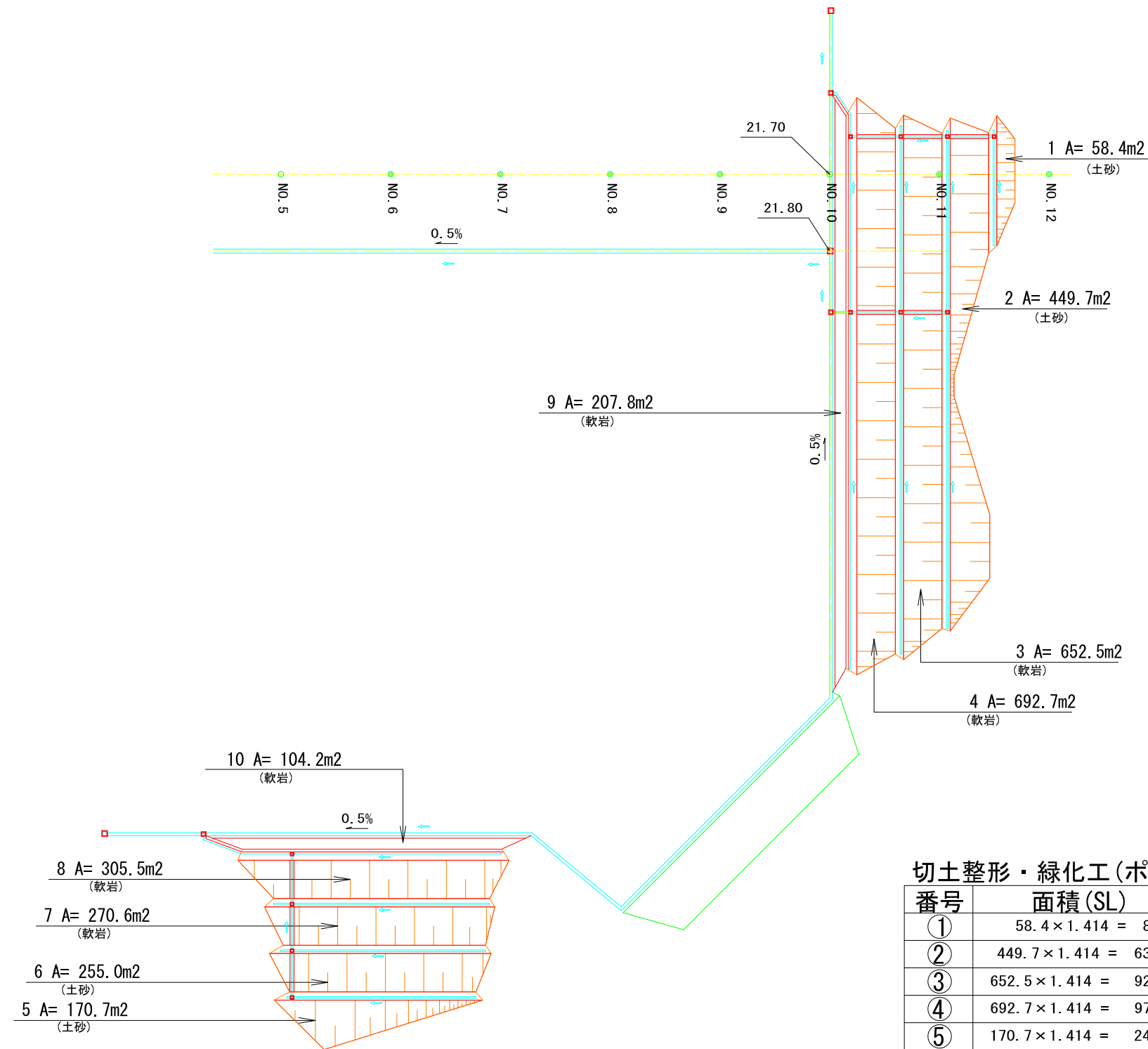


切土法面工平面図

S=1:500



切土整形・緑化工(ポット苗)

番号	面積(SL)
①	58.4 × 1.414 = 82.6
②	449.7 × 1.414 = 635.9
③	652.5 × 1.414 = 922.6
④	692.7 × 1.414 = 979.5
⑤	170.7 × 1.414 = 241.4
⑥	255.0 × 1.414 = 360.6
⑦	270.6 × 1.414 = 382.6
⑧	305.5 × 1.414 = 432.0
合計	= 4,037.2m ²
⑨	207.8 × 2.236 = 464.6
⑩	104.2 × 2.236 = 233.0
合計	= 4,734.8m ²

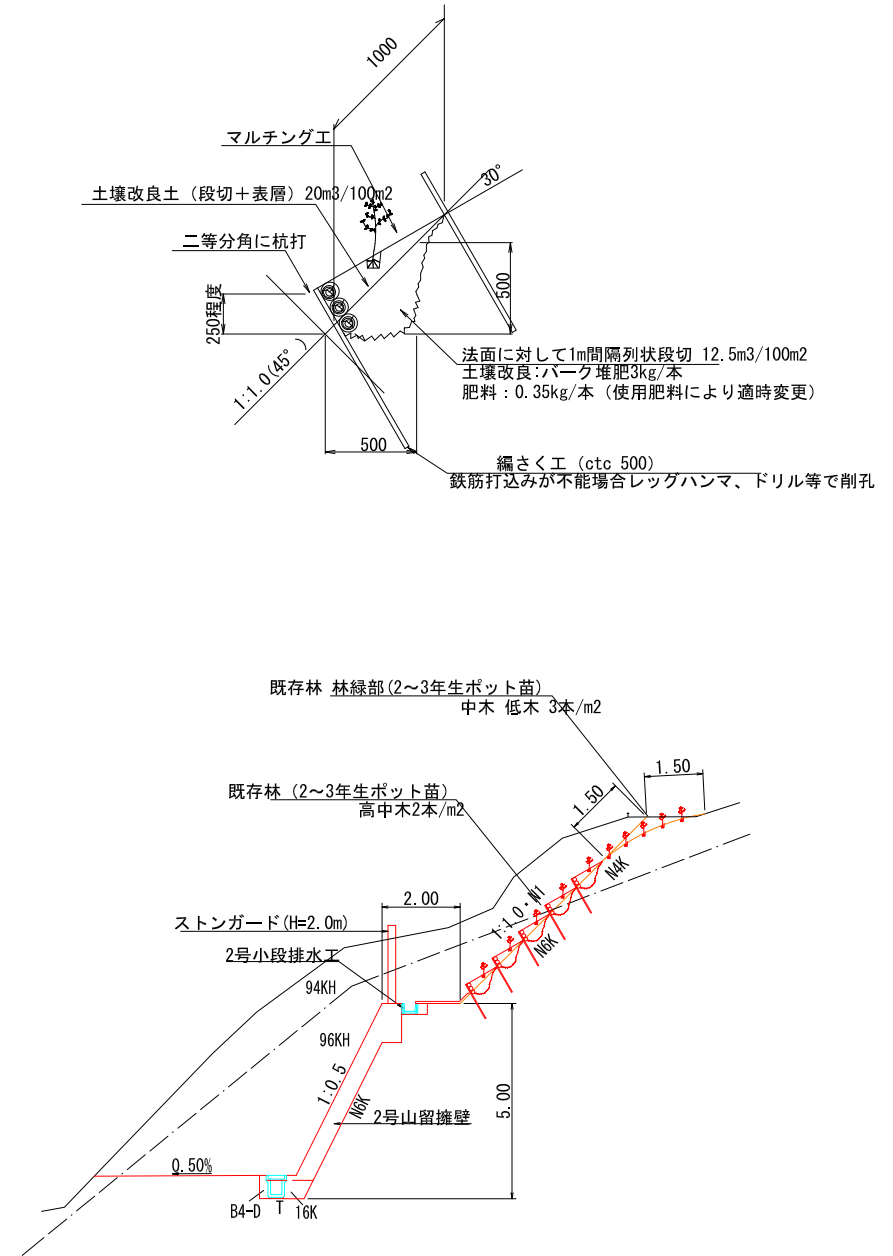
※(排水面積控除済)

緑化工(ポット苗)

切土整形
 (土砂)=1,320.5m²
 (軟岩)=3,414.3m²

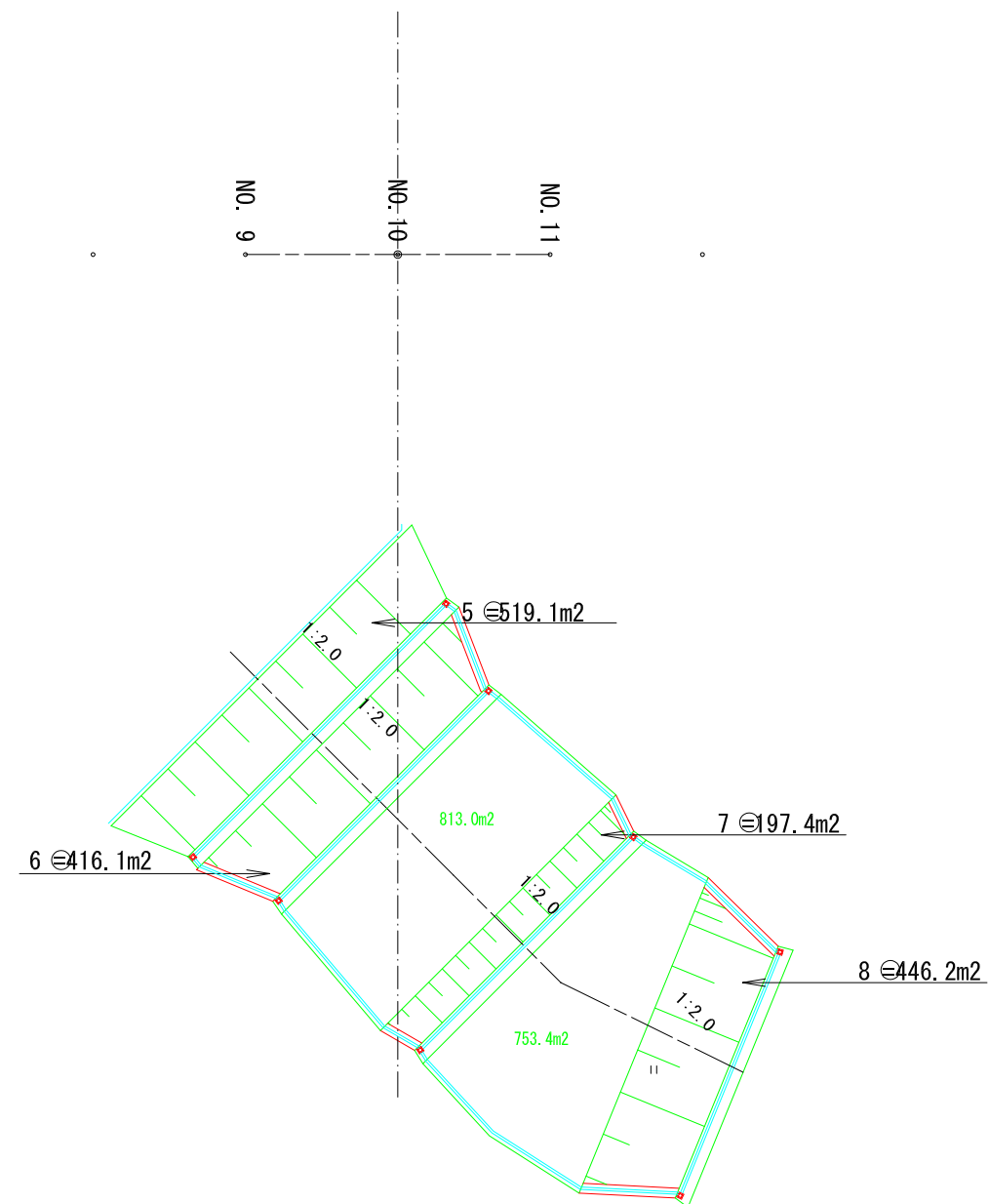
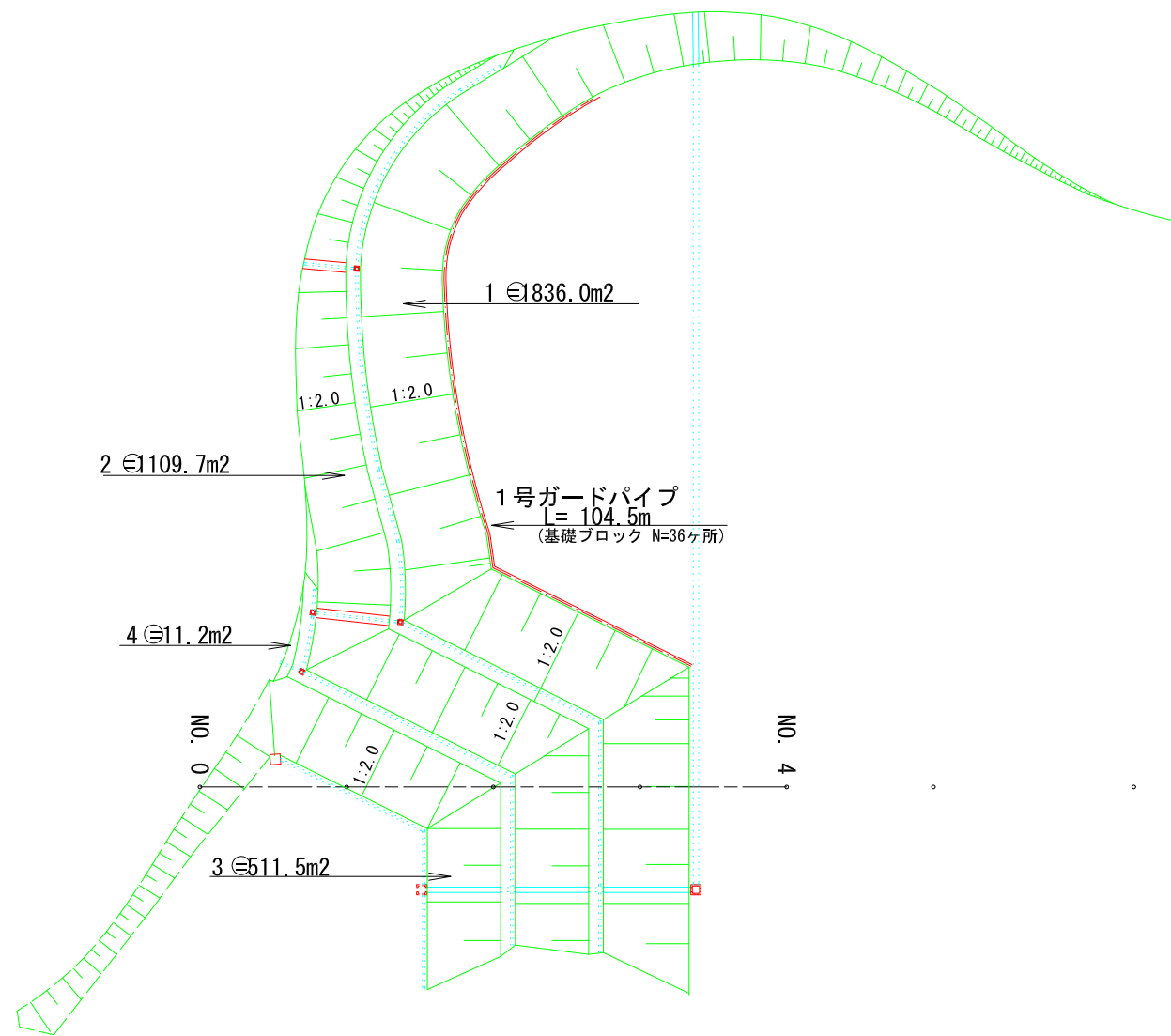
植生工詳細図

S=1:20



宿毛市			
工事種別	平成31年度 庁建 第1号 小深浦高台造成工事		
図面名称	切土法面整形・緑化	縮尺	図示
路線河川名	小深浦高台整備		
工事箇所	高知県 宿毛市 小深浦		
設計種別	実施設計図	図面番号	20/85
事務所名	宿毛市	会社名	

盛土法面工平面図 S=1:500



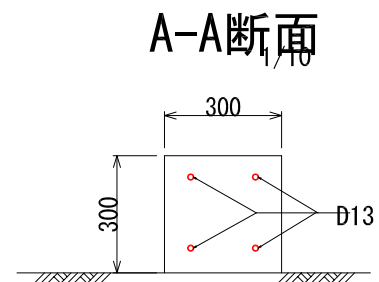
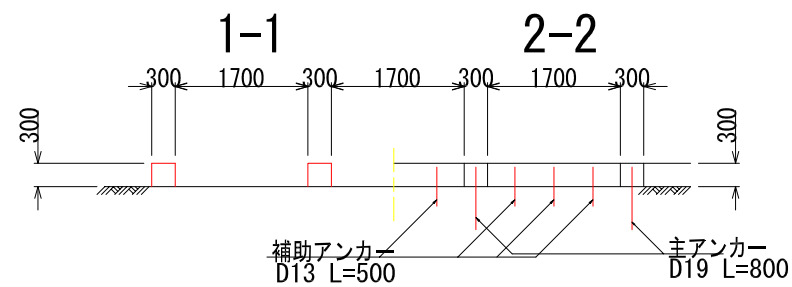
盛土整形・緑化工(植生シート)・土羽盛土

番号	面積 (NK4・N2)	立積 (BV9)
①	1836.0 × 1.118 = 2052.6	
②	1109.7 × 1.118 = 1240.6	
③	511.5 × 1.118 = 571.9	
④	11.2 × 1.118 = 12.5	
⑤	519.1 × 1.118 = 580.4	
⑥	416.1 × 1.118 = 465.2	
⑦	197.4 × 1.118 = 220.7	
⑧	446.2 × 1.118 = 498.9	
合計	5047.2 = 5642.8m ²	× 0.30 = 1,692.8m ³

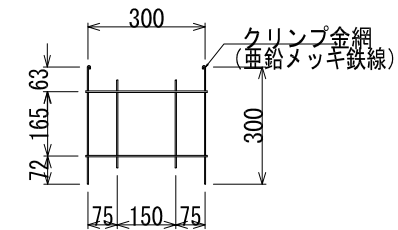
※(排水面積控除済)

宿毛市			
工事種別	平成31年度 庁建 第1号 小深浦高台造成工事		
図面名称	盛土法面整形・緑化	縮尺	1:500
路線河川名	小深浦高台整備		
工事箇所	高知県 宿毛市 小深浦		
設計種別	実施設計図	図面 番号	21 85
事務所名	宿毛市		
会社名			

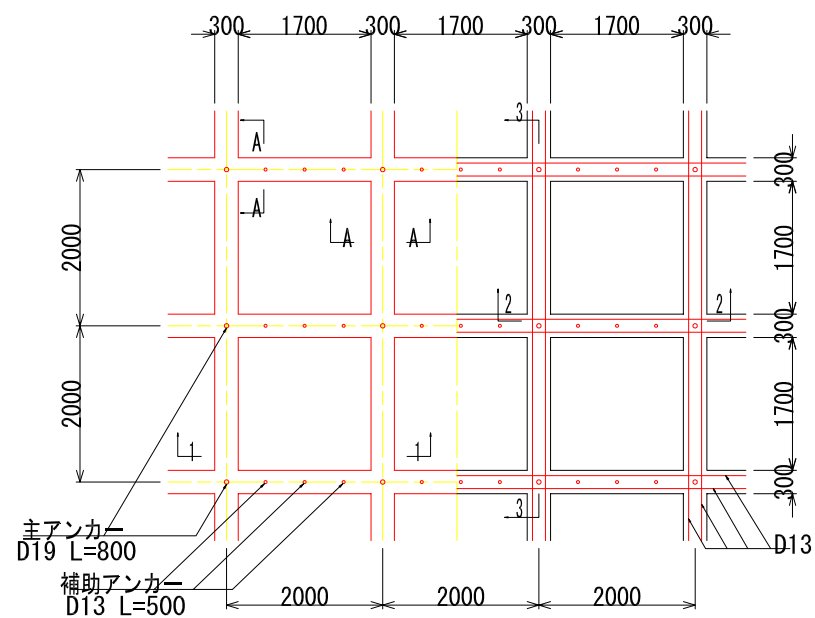
吹付のり枠構造図 (参考図) (2000*2000)



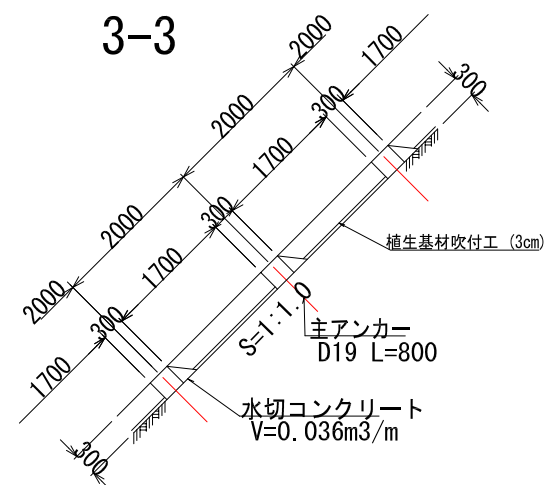
ユニット式フリーフォーム標準図 1/10



展開図 1/50



標準横断面図 1/50



宿毛市			
工事種別	平成31年度 庁建 第1号 小深浦高台造成工事		
図面名称	法枠工構造図 1	縮尺	図 示
路線河川名	小深浦高台整備		
工事箇所	高知県 宿毛市 小深浦		
設計種別	実施設計書		
事務所名	宿毛市	図面 番号	22 85
会社名			

法枠工展開図 S=1:200

法枠工数量 設計法枠延長 $\Sigma L=2689.9m$

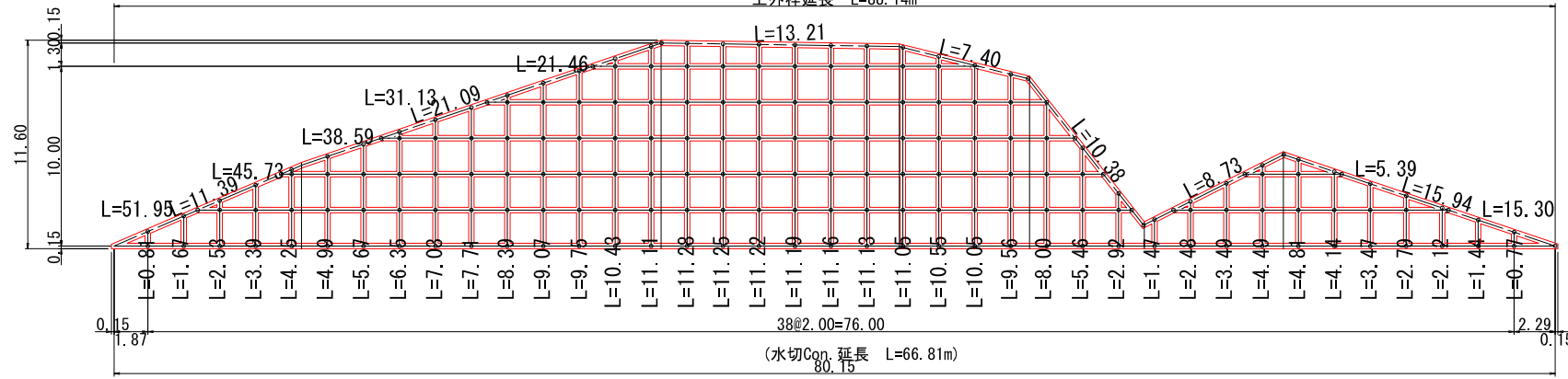
種別	細別	単位	数量(1段目)	数量(2段目)	数量(3段目)	数量(合計)
吹付枠工	300*300	m	1142.7	967.4	579.8	2689.9
法枠モルタル吹付工	300*300	m3	102.8	87.1	52.2	242.1
アンカーバー	D19 L=800	本	352	302	198	852
アンカーピン	D13 L=500	本	1041	886	314	2241
鉄筋D13	SD345	kg	4890.3	4141.7	1826.8	10858.8
枠内モルタル吹付工	t=5cm	m2	-	-	-	-
枠内植生基材吹付工	t=3cm	m2	477.9	404.0	240.6	1122.5
金網張工		m2	1108.9	932.8	524.5	2566.1
水切コンクリート	$\sigma_{ck}=18N/mm^2$	m3	27.1	23.2	14.8	65.1

3段目

A= 524.48 m²
アンカーバー= 198 本
上外枠延長 L=88.14m

(横枠延長) (横枠鉄筋延長)
(L=0.63+9@1.70+1.44=17.37) (L=21.46)
(L=0.52+14@1.70+1.66=25.98) (L=31.13)
(L=0.40+18@1.70+1.24=32.24) (L=38.59)
(L=0.05+22@1.70+0.81=38.26) (L=45.73)
(L=0.70+25@1.70+0.39=43.59) (L=51.95)

横枠小計 $\Sigma LH=157.44m$ (188.86m)
横枠小計 $\Sigma LH=16.37m$ (20.69m)
横枠合計 $\Sigma LH=173.81m$ (209.55m)



合計 28.44m
縦枠本数切本 $\times (0.15+0.15) = 1.70$
縦枠合計 $\Sigma LH=23.74m$

(横枠延長) (横枠鉄筋延長)
(L=0.49+1@1.70+1.79=3.98) (L=5.39)
(L=0.46+6@1.70+1.73=12.39) (L=15.30)

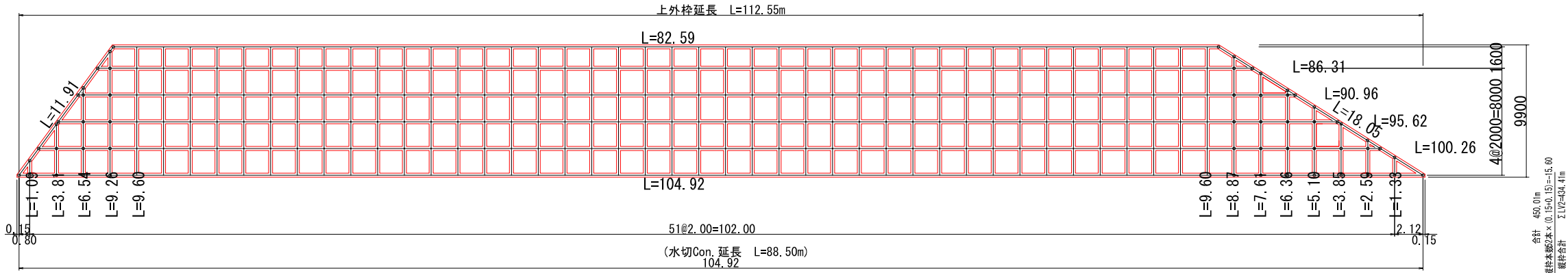
横枠小計 $\Sigma LH=16.37m$ (20.69m)

2段目

A= 932.75 m²
アンカーバー= 302 本
上外枠延長 L=112.55m

(横枠延長) (横枠鉄筋延長)
(L=0.59+42@1.70+0.96=72.95) (L=86.31)
(L=0.06+45@1.70+0.14=76.70) (L=90.96)
(L=1.53+46@1.70+1.32=81.05) (L=95.62)
(L=1.00+49@1.70+0.51=84.81) (L=100.26)

横枠合計 $\Sigma LH=315.51m$ (373.15m)



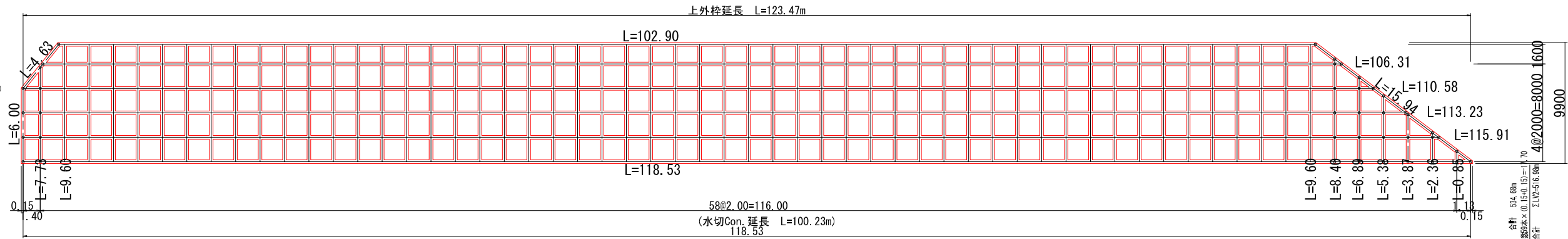
合計 450.0m
縦枠本数切本 $\times (0.15+0.15) = 15.60$
縦枠合計 $\Sigma LH=434.41m$

1段目

A= 1108.88 m²
アンカーバー= 352 本
上外枠延長 L=123.47m

(横枠延長) (横枠鉄筋延長)
(L=1.44+52@1.70+0.13=89.97) (L=106.31)
(L=1.02+54@1.70+0.78=93.60) (L=110.58)
(L=1.10+55@1.70+1.43=96.03) (L=113.23)
(L=1.10+57@1.70+0.08=98.08) (L=115.91)

横枠合計 $\Sigma LH=377.68m$ (446.03m)

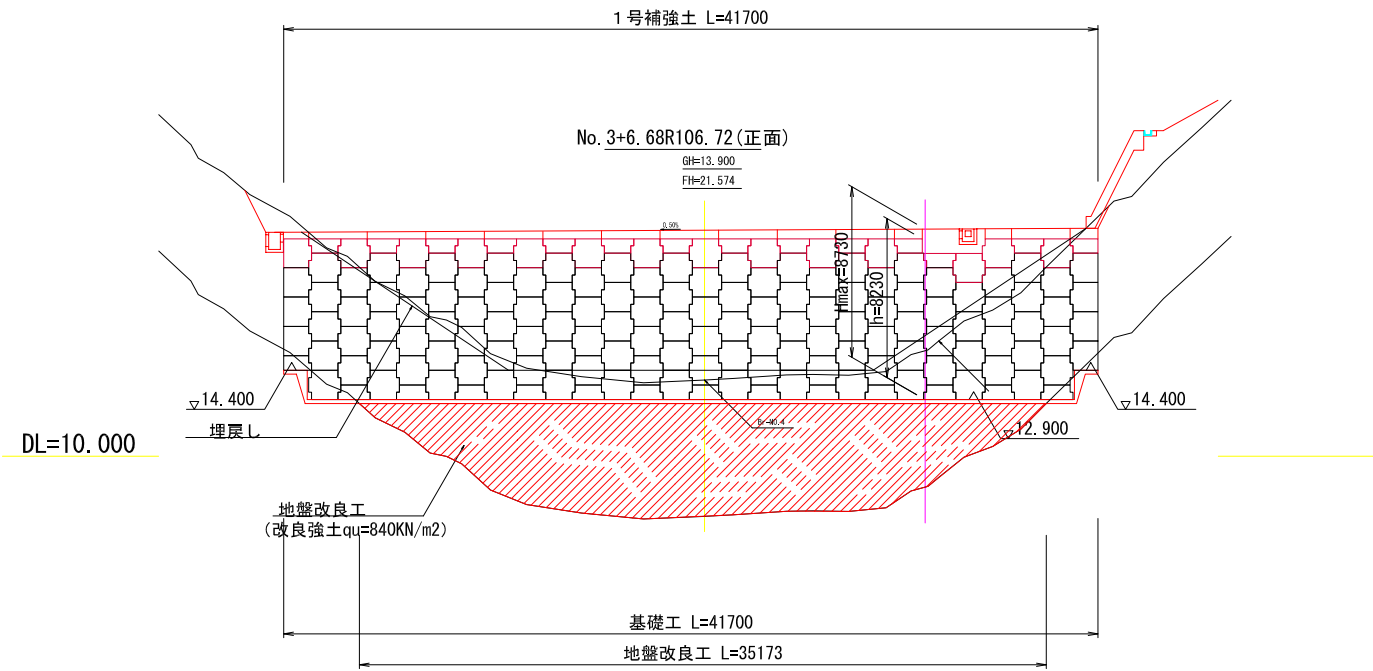


合計 534.68m
縦枠本数切本 $\times (0.15+0.15) = 17.70$
縦枠合計 $\Sigma LH=516.98m$

宿毛市			
工事種別	平成31年度 庁建 第1号 小深浦高台造成工事		
図面名称	法枠工展開図 2	縮尺	1:200
路線河川名	小深浦高台整備		
工事箇所	高知県 宿毛市 小深浦		
設計種別	実施設計図	図面番号	23/85
事務所名	宿毛市	会社名	

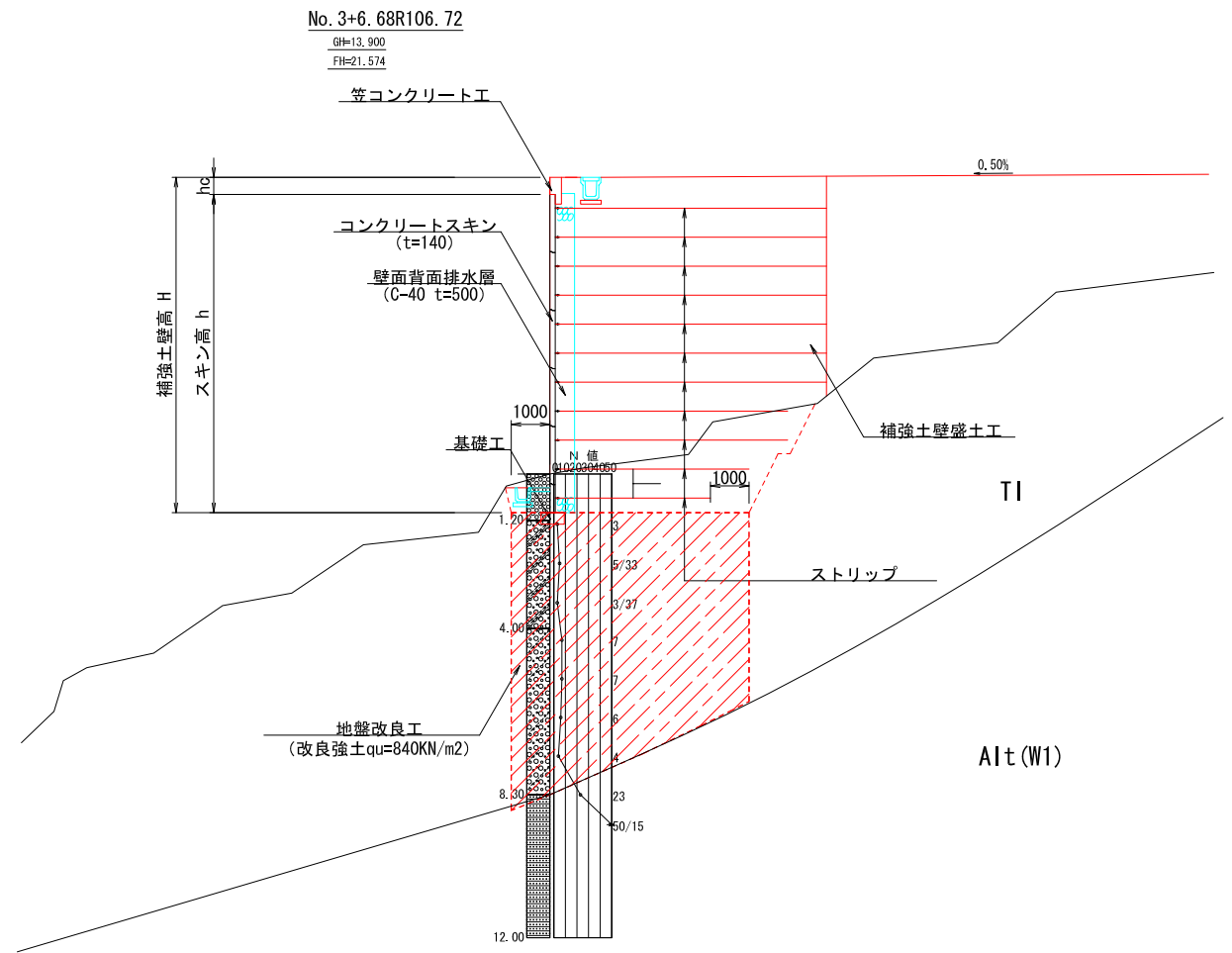
1号補強土（テールアルメ）壁工 一般図

正面展開図 S=1:200

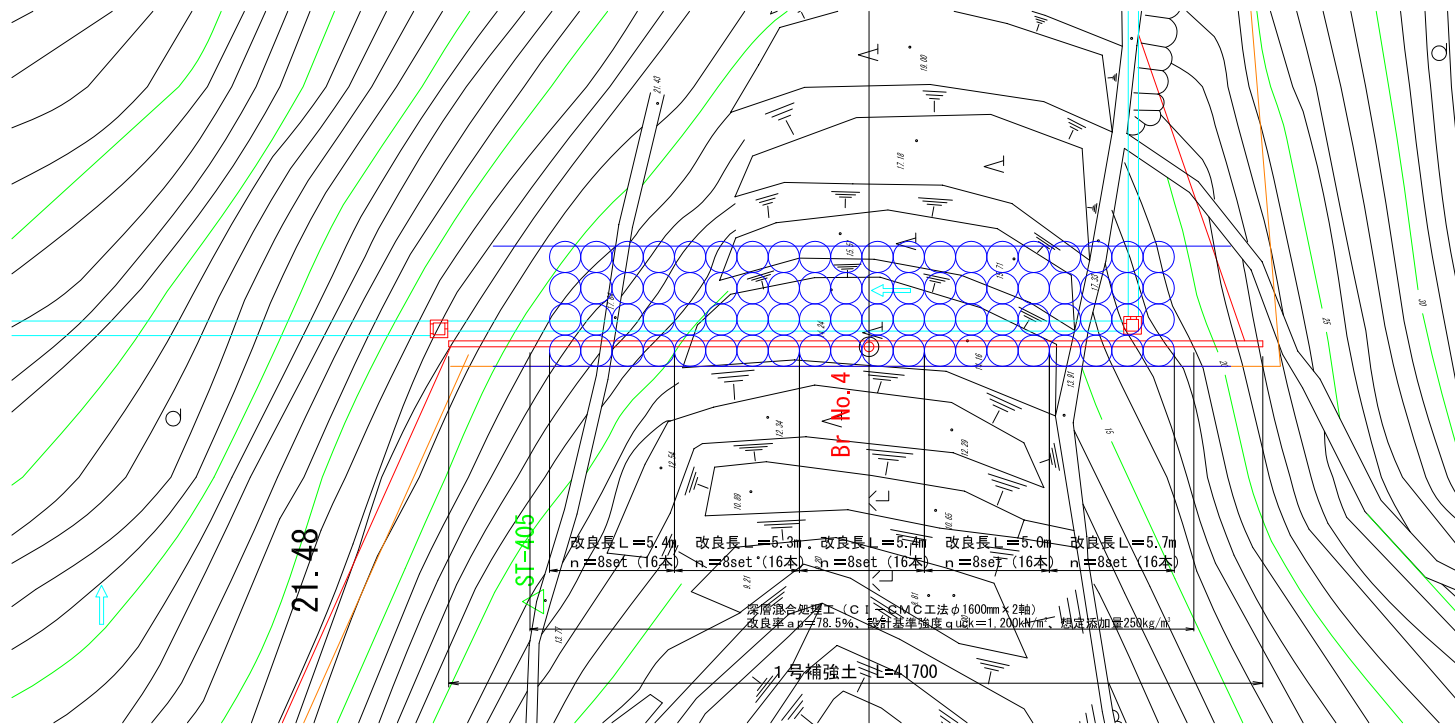


注記) 1. 表記の区間距離(延長)については、平面図からの図測であり、施工時に確認すること。
 2. 表記の展開図については、施工時に確認し、根入れ等の不足がないか照査すること。
 3. 表記の地盤改良計画については、想定した地層設置に基づいたものであり、施工時に原地盤状況を把握し、再確認すること。また改良土量については、別途計上する事。

標準断面図 S=1:100



平面図 S=1:200



深層混合処理工 (C I - C M C 工法 φ1600mm × 2軸)

- ※ 改良対象層はt1層である。
- ※ 改良杭長は土層縦断面および土層断面図を基に設定した平均改良長を記載している。実施にあたっては、現地の支持層を確認し着底管理施工を実施すること。
- ※ 改良体の設計基準強度は改良率(78.5%)を考慮して1,200kN/m²とする。
- ※ セメント添加量は高炉セメントB種 250kg/m³を想定している。施工に先立ち室内配合試験を実施してセメントの種類及び添加量を決定すること。

設計条件1 (形状・応力等)

検討壁高	Hmax=8.73m (h=8.23m)	
盛土材	土砂	内外的安定検討時 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=0\text{kN/m}^2$
土質条件	砂質土	全体安定検討時 ※1 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=10\text{kN/m}^2$
地震動の影響	重要度区分	重要度1
	地震動の作用	レベル2地震動 (II種地盤)
設計水平震度	地域別補正係数Cz	0.70 (地域区分:B)
	内外的安定検討	kh=0.17
盛土材と補強材の摩擦係数	コンクリートスキンの設計基準強度	$f' = 1.5 \sim \tan 36^\circ$
	コンクリートスキンの設計基準強度	$\sigma_{ck} = 30\text{N/mm}^2$ 以上
安全率及び許容応力度	常時	2.0
	地震時	1.2
補強材の引抜きに対する安全率	常時	2.0
	地震時	1.2
補強材の引張応力度 (SS400)	常時	140N/mm ²
	地震時	210N/mm ²
ボルトのせん断応力度	常時	200N/mm ²
	地震時	300N/mm ²
適用指針	補強土(テールアルメ)壁工法 設計・施工マニュアル第4回改訂版	

※1: 補強土(テールアルメ)壁 マニュアル 4.3土・地盤の設計諸定数より

設計条件2 (外的安定計算)

最大地盤反力度	盛土直下	260kN/m ²	
	壁面直下	275kN/m ²	
安全率	すべり破壊に対する	常時 1.20	地震時 1.00
	滑動に対する	1.50	1.20
	転倒に対する	L/6	L/3
	支持力に対する	3.00	2.00

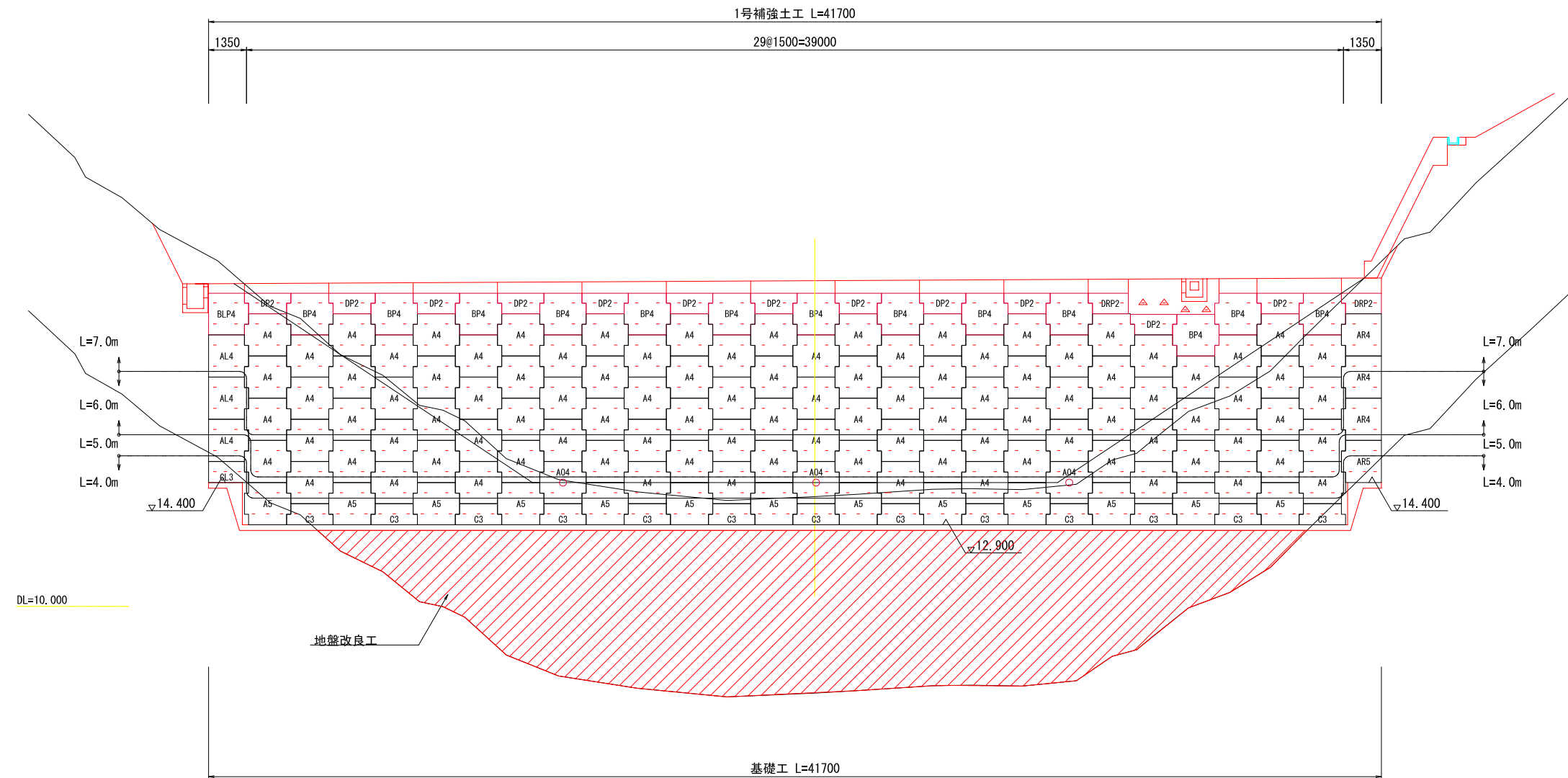
特記

- 盛土材料は、次に示す[A1]もしくは[A2]材料を使用することを原則とする。
 [A1] 細粒分(土粒子の粒径が75μm以下のもの)の含有量が25%以下の土質材料。
 [A2] 250mmを越える大粒径のものを含まない硬岩ずりて75mmふるい通過分中の細粒分の含有量が25%以下、かつ、大小粒が適度に混合して締固めのし易いもの。但し、スレーキングする可能性のある材料(泥岩、頁岩、凝灰岩、片岩、等)を使用する場合は、専門技術者の判断によるものとする。
- 表中の最大地盤反力度は設計区間の最大値を示すものであり、施工時に基礎地盤の地耐力が設計値以上であるかの確認を行うこと。
- 現地盤及び掘削面に湧水(被圧地下水等)が確認できる場合には、別途対策を検討すること。
- 施工時には、土質試験を行い盛土材料が設計条件を満足出来ることを確認すること。
 尚、設計条件を満足出来ない場合は、追加検討すること。
- 施工時に原地盤状況(地層分布、土質定数等)を確認し、想定外の地層分布を示す場合には、盛土全体における外的安定性(円弧すべり、沈下)について再照査を行うこと。

宿毛市			
工事種別	平成31年度 庁建 第1号 小深浦高台造成工事		
図面名称	1号補強土壁工一般図	縮尺	図示
路線河川名	小深浦高台整備		
工事箇所	高知県 宿毛市 小深浦		
設計種別	実施設計図		
事務所名	宿毛市	図面番号	24/85
会社名			

1号補強土（テールアルメ）壁工 展開図

正面展開図 S=1:100

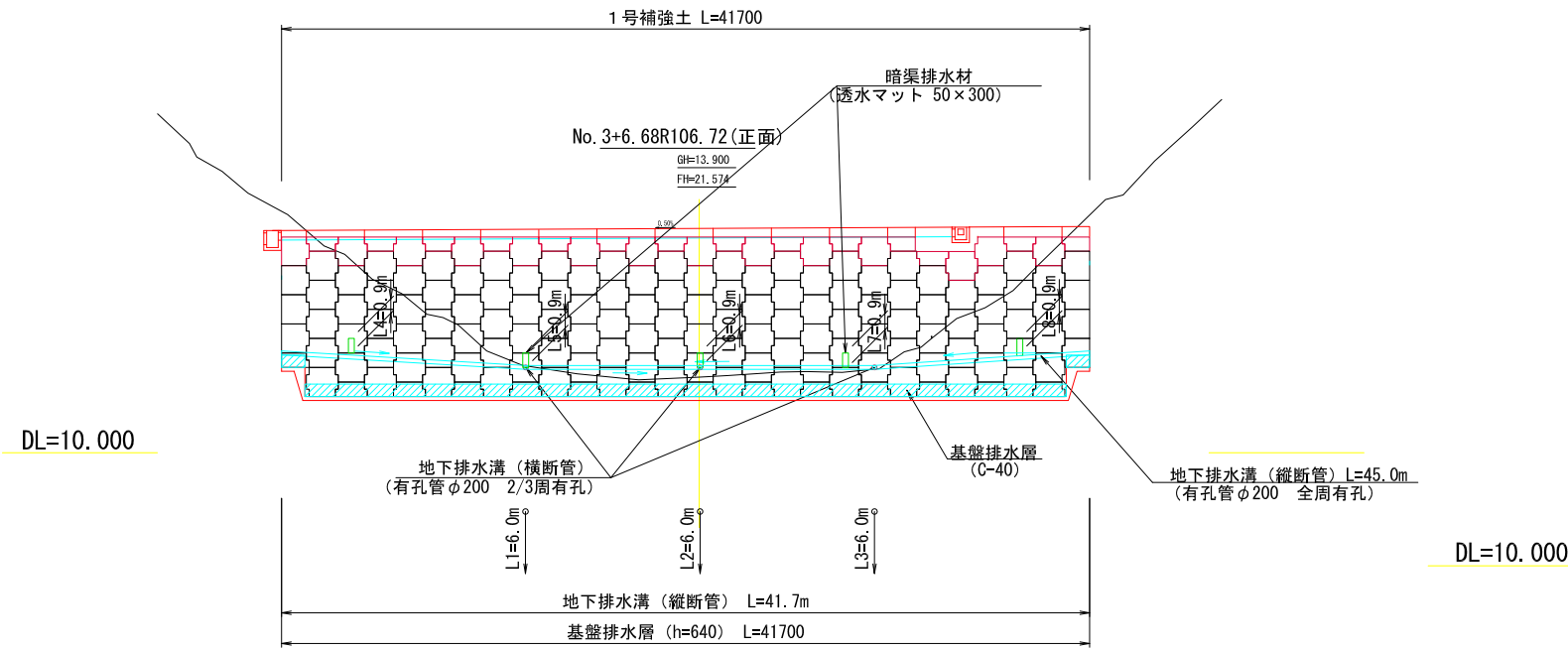


- 注記) 1. Lは、設計計算により決定したストリップ長（実行長）を示す。
 2. 一印についてはストリップの設置位置を示すものとし、仕様については（PL-60×4.0×L）とする。
 3. △印のストリップは、笠石コンクリートに現場打設コネクティブを用いて、直方向に補助ストリップを設置する位置を示す。尚、直方向補助ストリップ長は、Lとする。

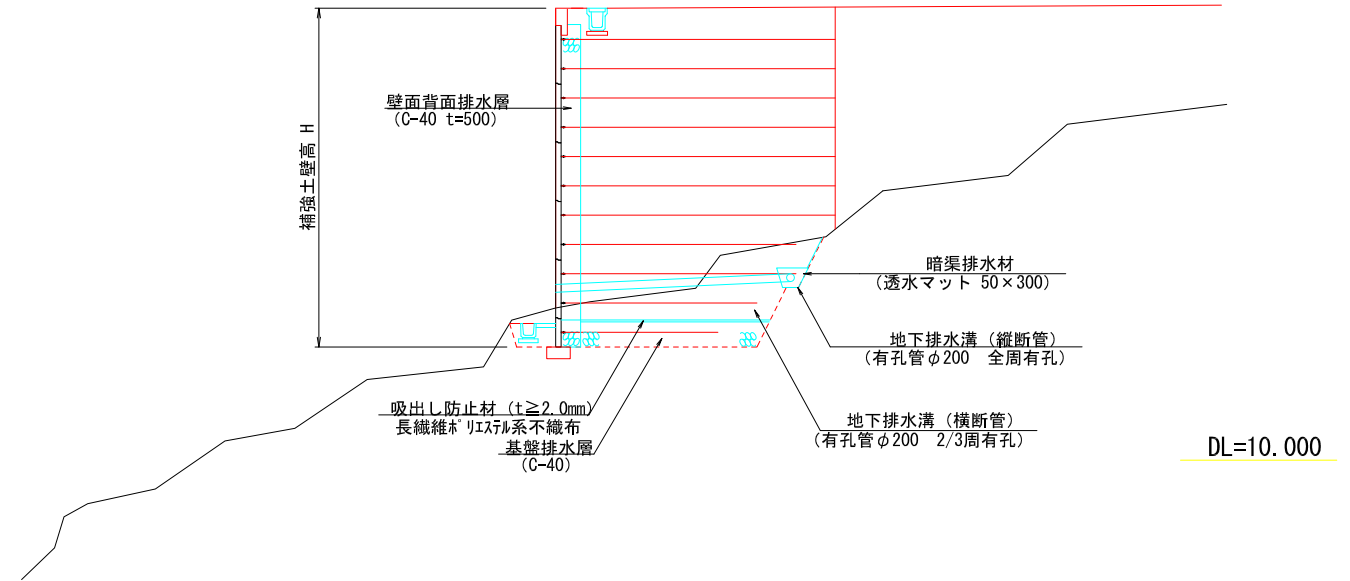
宿毛市			
工事種別	平成31年度 庁建 第1号 小深浦高台造成工事		
図面名称	1号補強土工展開図	縮尺	図示
路線河川名	小深浦高台整備		
工事箇所	高知県 宿毛市 小深浦		
設計種別	実施設計図	図面 番号	25 85
事務所名	宿毛市		
会社名			

1号補強土（テールアルメ）壁工 排水図

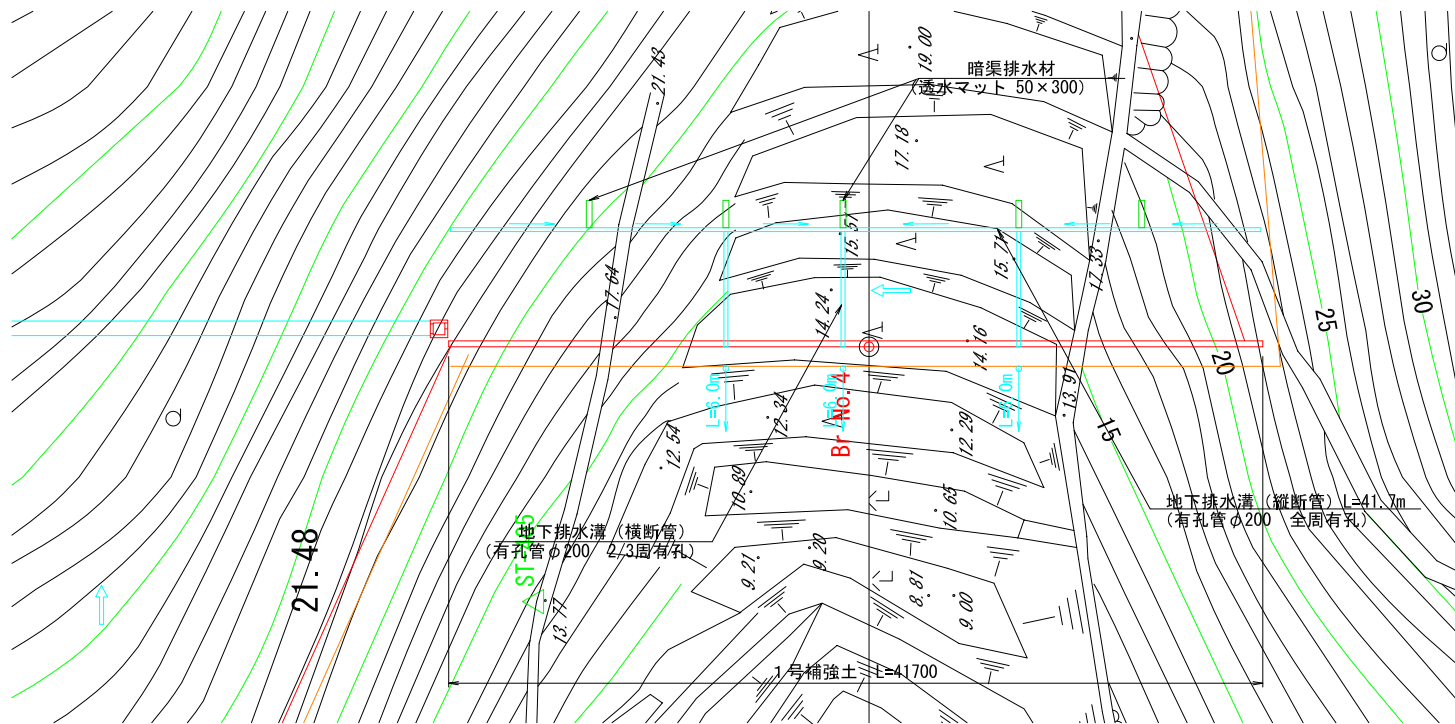
正面展開図 S=1:200



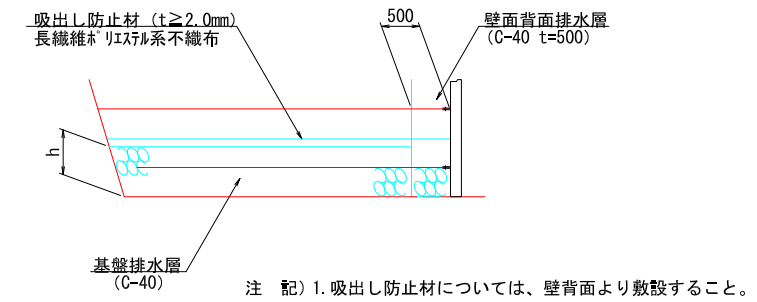
標準断面図 S=1:100



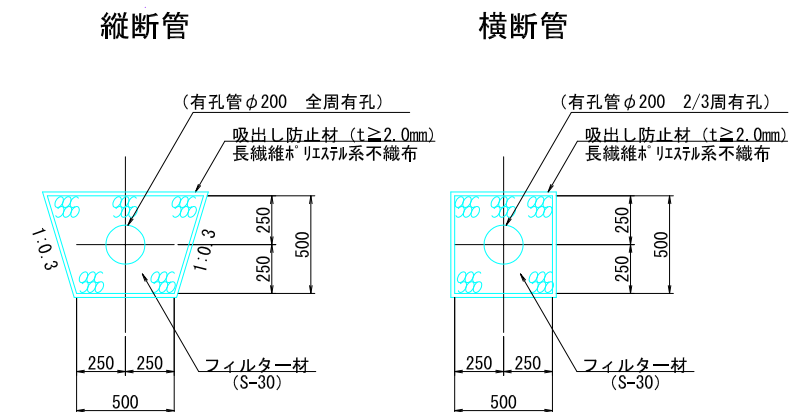
平面図 S=1:200



吸出し防止材設置図 S=1:25



地下排水溝詳細図 S=1:10

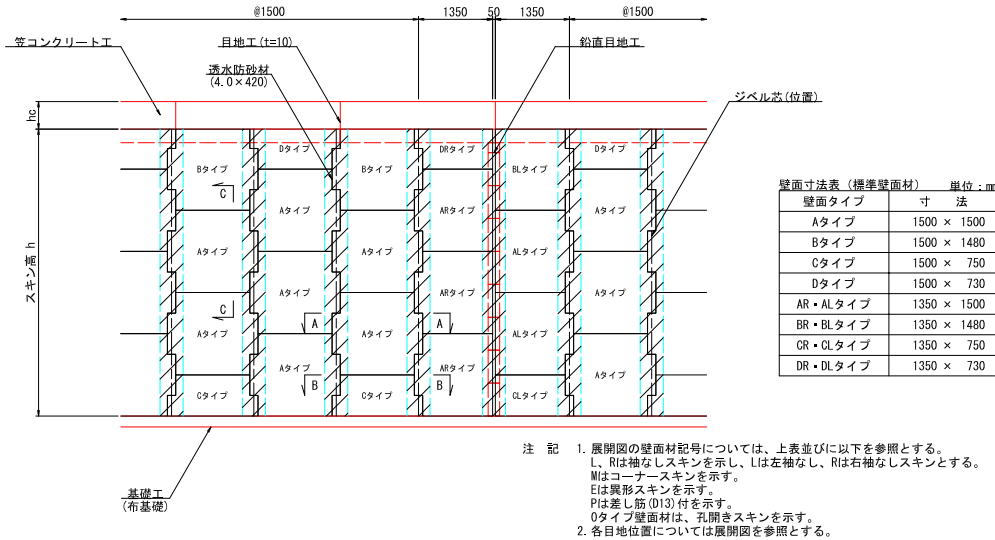


宿毛市			
工事種別	平成31年度 庁建 第1号 小深浦高台造成工事	縮尺	図示
図面名称	1号補強土壁工排水図	縮尺	図示
路線河川名	小深浦高台整備		
工事箇所	高知県 宿毛市 小深浦		
設計種別	実施設計図	図面番号	26/85
事務所名	宿毛市	図面番号	26/85
会社名			

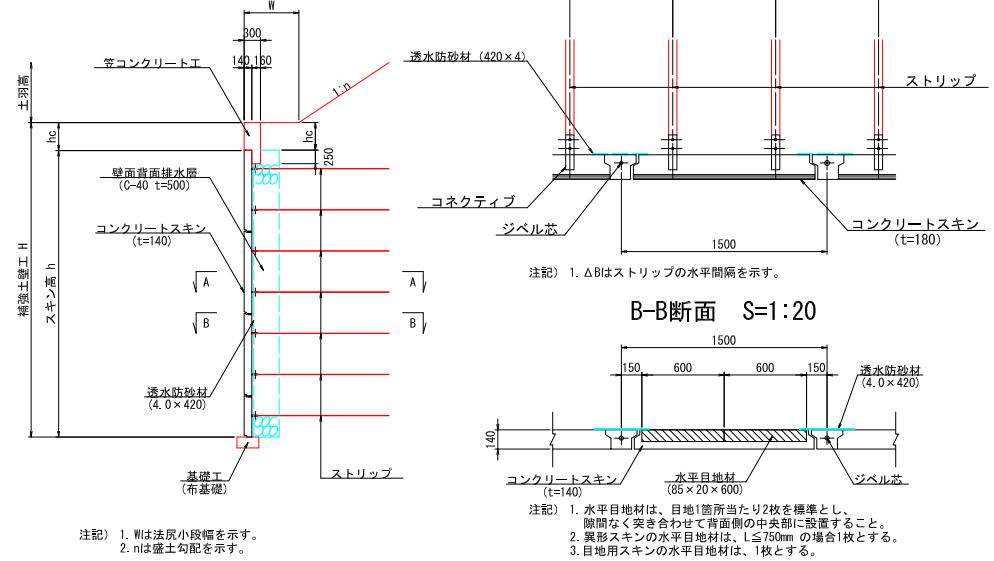
1号補強土（テールアルメ）壁工 詳細図

構造一般図(1)

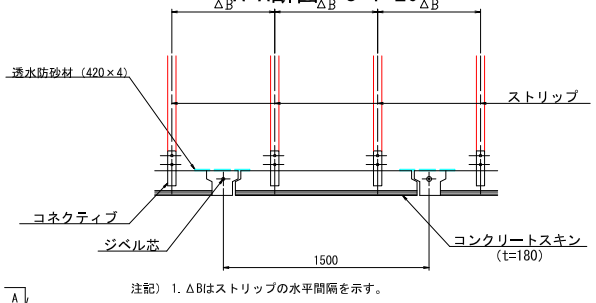
組立一般正面図 S=1:50



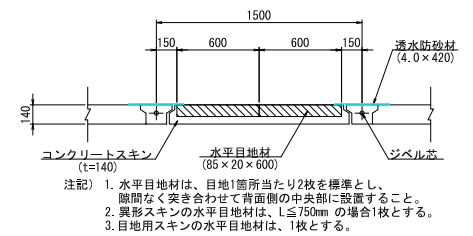
組立一般断面図 S=1:50



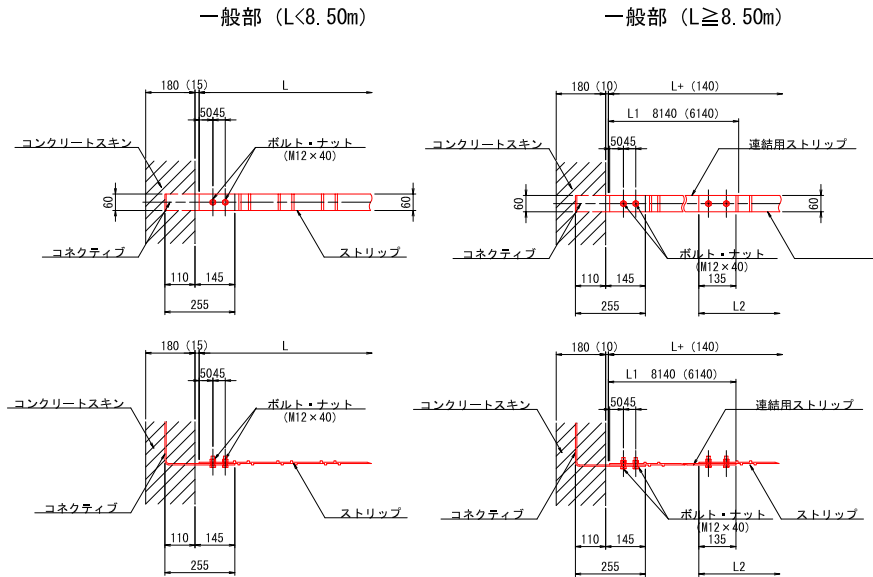
A-A断面 S=1:20



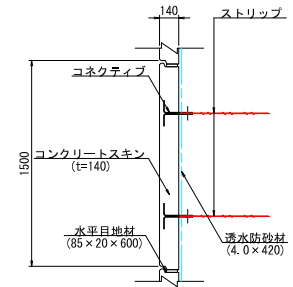
B-B断面 S=1:20



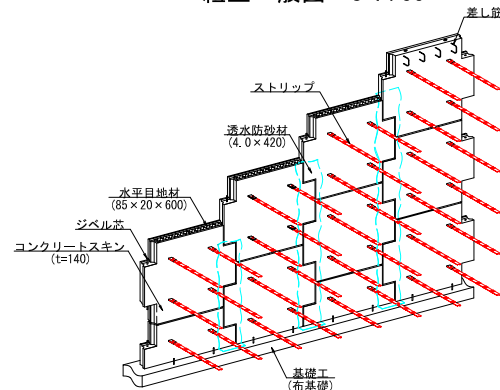
補強材取付詳細図 S=1:10



C-C断面 S=1:20



組立一般図 S=Free

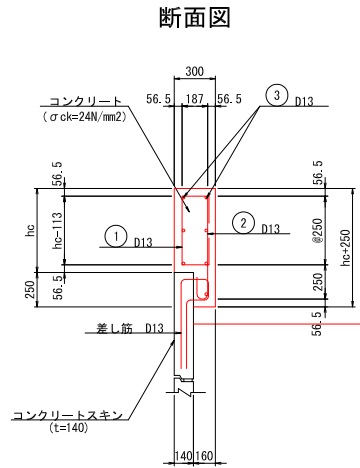
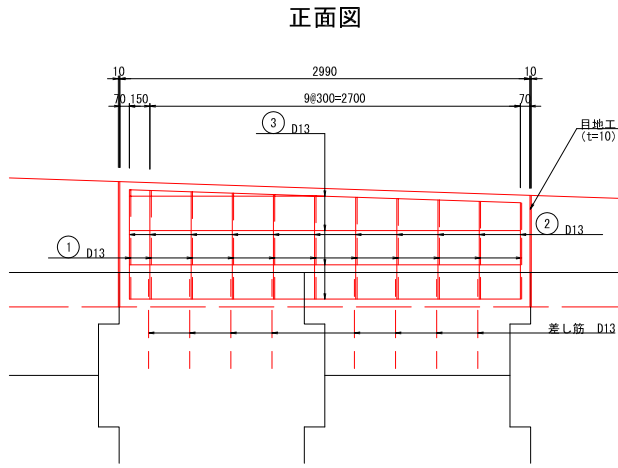


宿毛市			
工事種別	平成31年度 庁建 第1号 小深浦高台造成工事		
図面名称	1号補強土壁工 構造一般図(1)		
路線河川名	小深浦高台整備		
工事箇所	高知県 宿毛市 小深浦		
設計種別	実施設計図	図面番号	27/85
事務所名	宿毛市	図面番号	27/85
会社名			

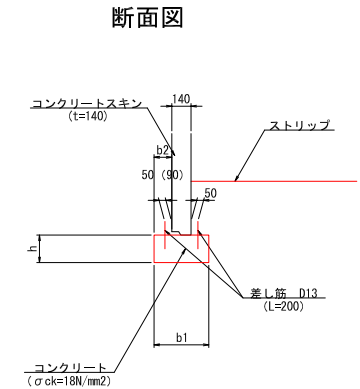
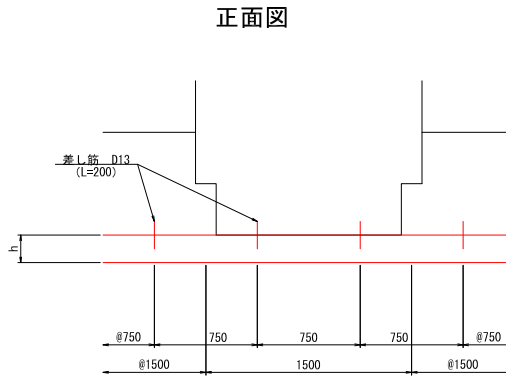
1号補強土（テールアルメ）壁工 詳細図

構造一般図(2)

笠コンクリート工構造配筋一般図 S=1:20



基礎工(布基礎)構造一般図 S=1:20

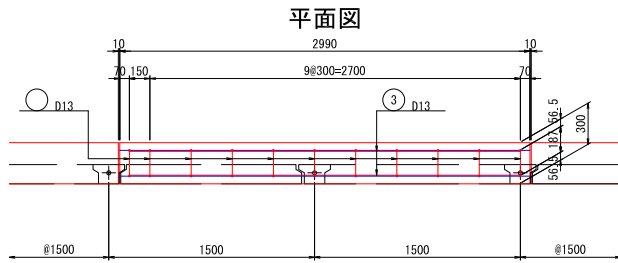


注 記) 1. 基礎工上面は、金コテにて整形すること。
2. 差し筋位置については、スキン1枚あたり2組(4本)を基本とし、壁面材寸法(展開図参照)を確認の上、設置すること。

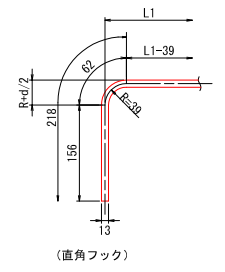
注 記) 1. () 内寸法は、デザインスキン使用時の差し筋位置を示す。
2. 基礎構造寸法 (b1, h) については、タイプ別に下表によるものとする。
3. スキンは、基礎中央に設定することを原則とする。

注 記) 1. hcは、笠コンクリート工前面高を示す。
2. 笠コンクリート高hc<300の場合は無筋構造としてもよい。
3. 目地材の設置位置は展開図を参照とする。

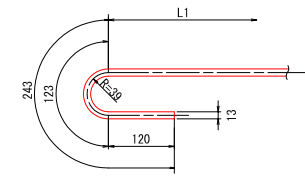
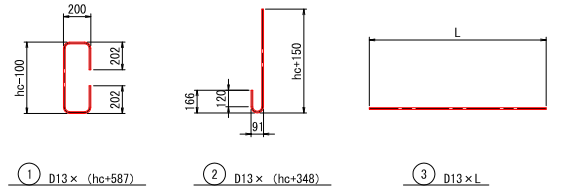
寸法表	h	b1	b2	単位: mm
B1タイプ	200	400	130	砕石あり
B2タイプ	300	600	230	砕石あり



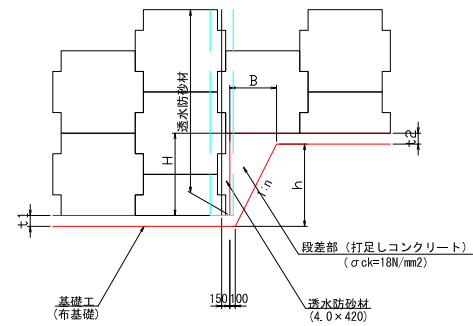
鉄筋曲げ加工図(参考図) S=1:5



鉄筋加工図



基礎工(布基礎)段差部一般図 S=1:50



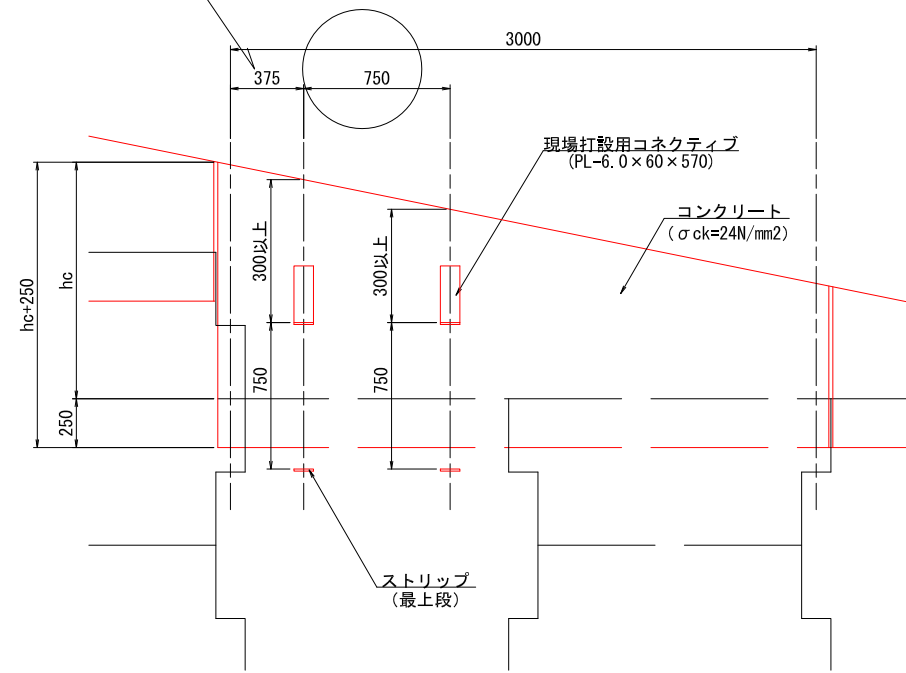
注 記) 1. 段差部の基礎形状は、展開図の基礎タイプに準拠し、下式より決定すること。
 $h = H + (t1 - t2)$
 $B = h \times n + 100$
尚、段差部の基礎幅は、t 2に合わせることに。
2. nは掘削勾配を示す。
3. 段差部(打足しコンクリート)とスキンの間隙には背面側に透水防砂材を設置すること。

宿毛市			
工事種別	平成31年度 庁建 第1号 小深浦高台造成工事	縮尺	図 示
図面名称	1号補強土壁工 構造一般図(2)	縮尺	図 示
路線河川名	小深浦高台整備		
工事箇所	高知県 宿毛市 小深浦		
設計種別	実施設計図	図 面 号	28 / 85
事務所名	宿毛市	図 面 号	28 / 85
会社名		図 面 号	28 / 85

1号補強土（テールアルメ）壁工 詳細図

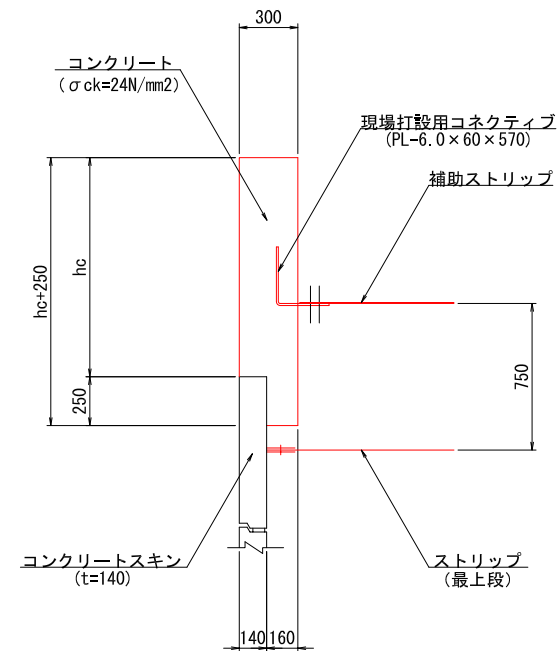
構造一般図(3)

位置は図面毎で調整
補助ストリップ構造一般図(hc \geq 1000) S=1:20
正面図



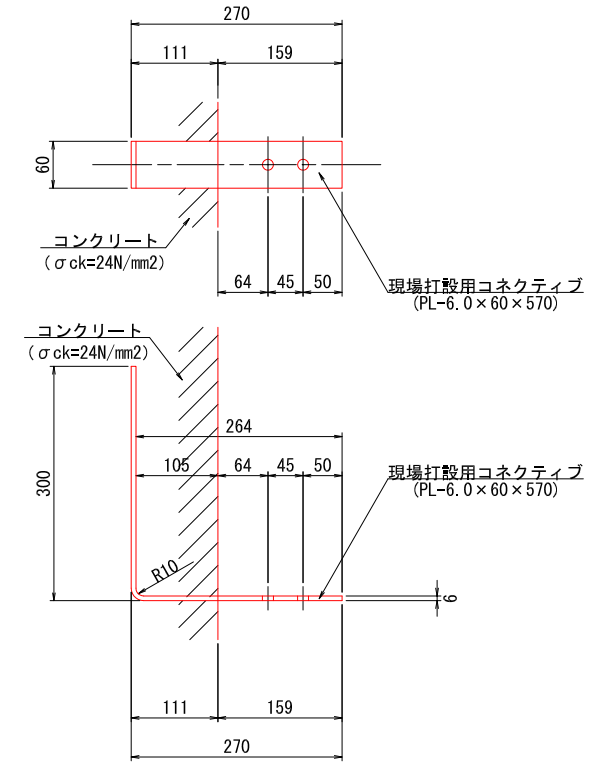
- 注記) 1. hcは笠コンクリート工前面高を示し、hc \geq 1000mmの場合は、現場打設用コネクティブを用いて補助ストリップを設置する。
2. 補助ストリップは展開図に示すブロックの笠コンクリート工に設置するものとする。
3. 補助ストリップ位置（表記寸法）については、笠コンクリート工の高いほうからの距離であり、勾配が反転する場合は配置位置についても反転するものとする。
4. 現場打設用コネクティブと笠コンクリート工鉄筋が干渉する場合は、所定の間隔を遵守した上で、鉄筋位置を適宜調整すること。
5. 補助ストリップ長については、当該ブロックの最上段ストリップ長と同様とする。尚、設置に当たっては、上部の土被り300mm以上確保できることを確認すること。土被りが確保出来ない場合には、左右に移動し土被りを確保して設置すること。

断面図



- 注記) 1. hcは、笠コンクリート工前面高を示す。
2. 目地材の設置位置は展開図を参照とする。

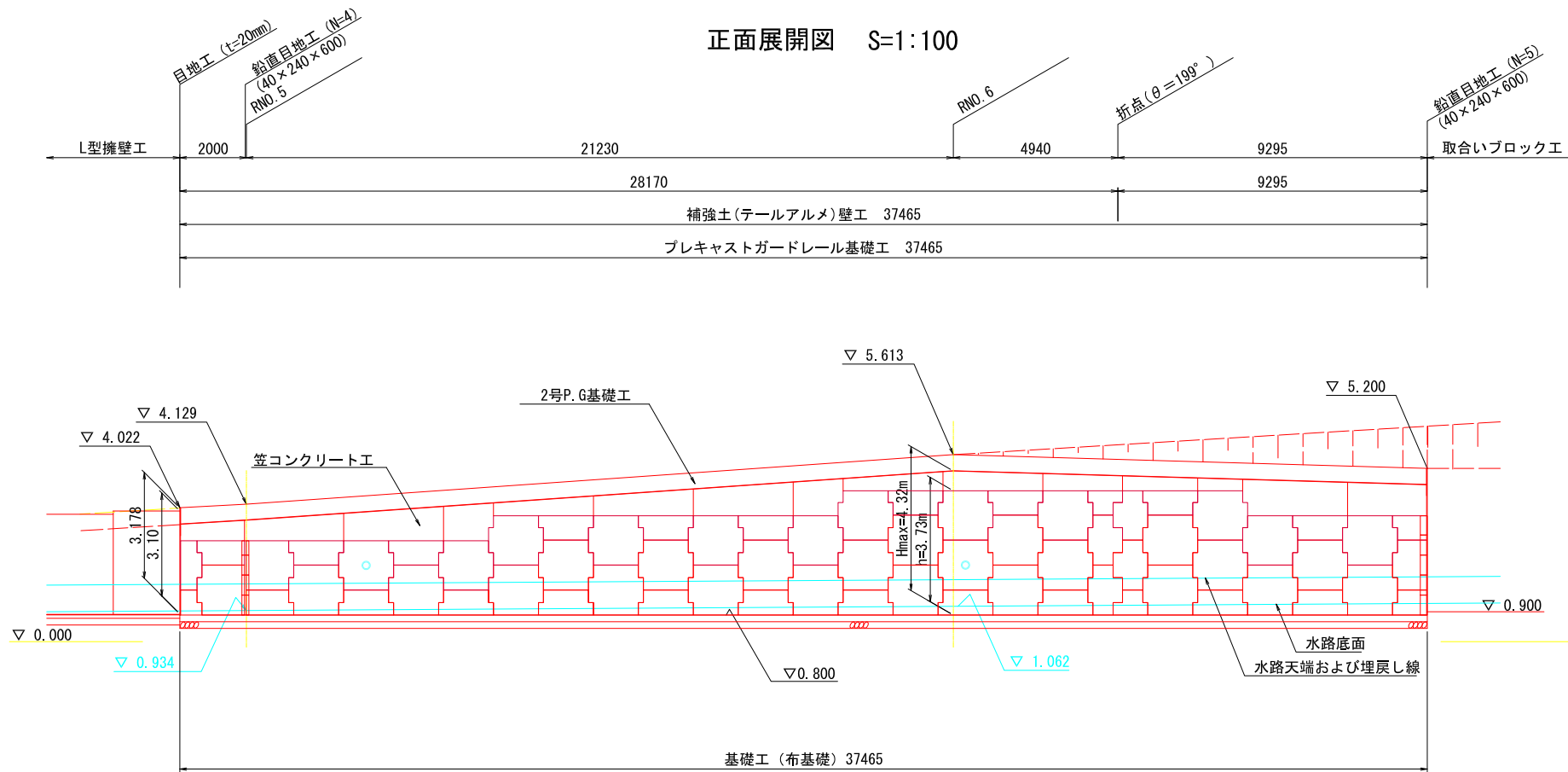
現場打設用コネクティブ詳細図 S=1:5



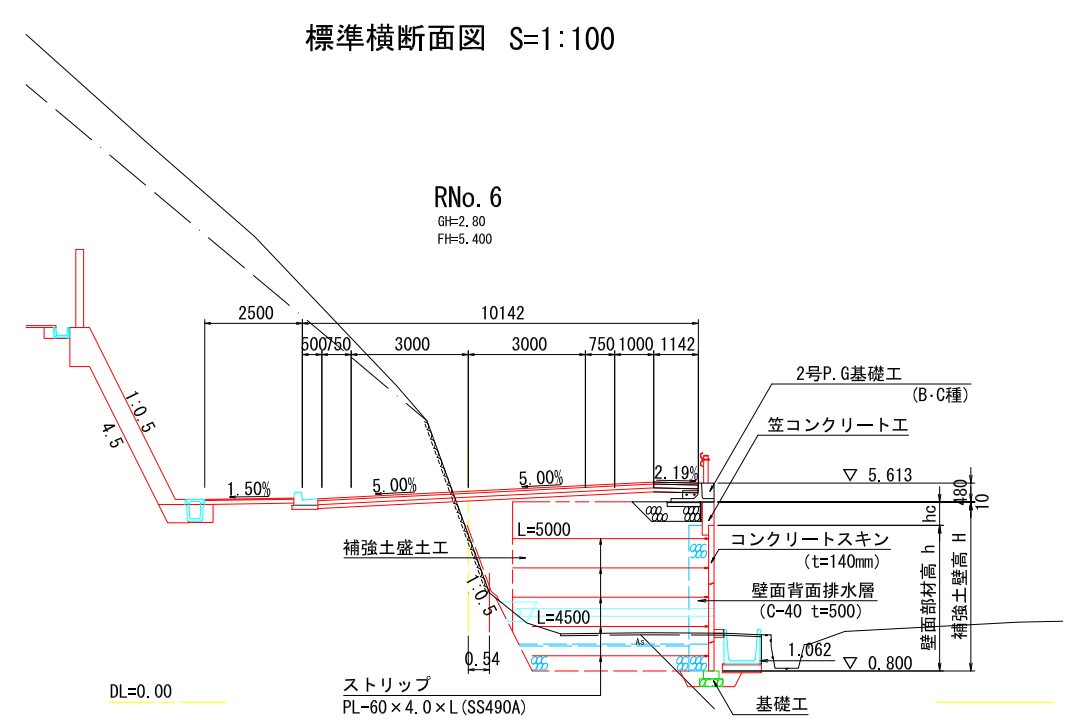
宿毛市			
工事種別	平成31年度 庁建 第1号 小深浦高台造成工事		
図面名称	1号補強土壁工 構造一般図(3)	縮尺	図示
路線河川名	小深浦高台整備		
工事箇所	高知県 宿毛市 小深浦		
設計種別	実施設計図	図面 番号	29 85
事務所名	宿毛市		
会社名			

2号補強土(テールアルメ)壁工 一般図

正面展開図 S=1:100

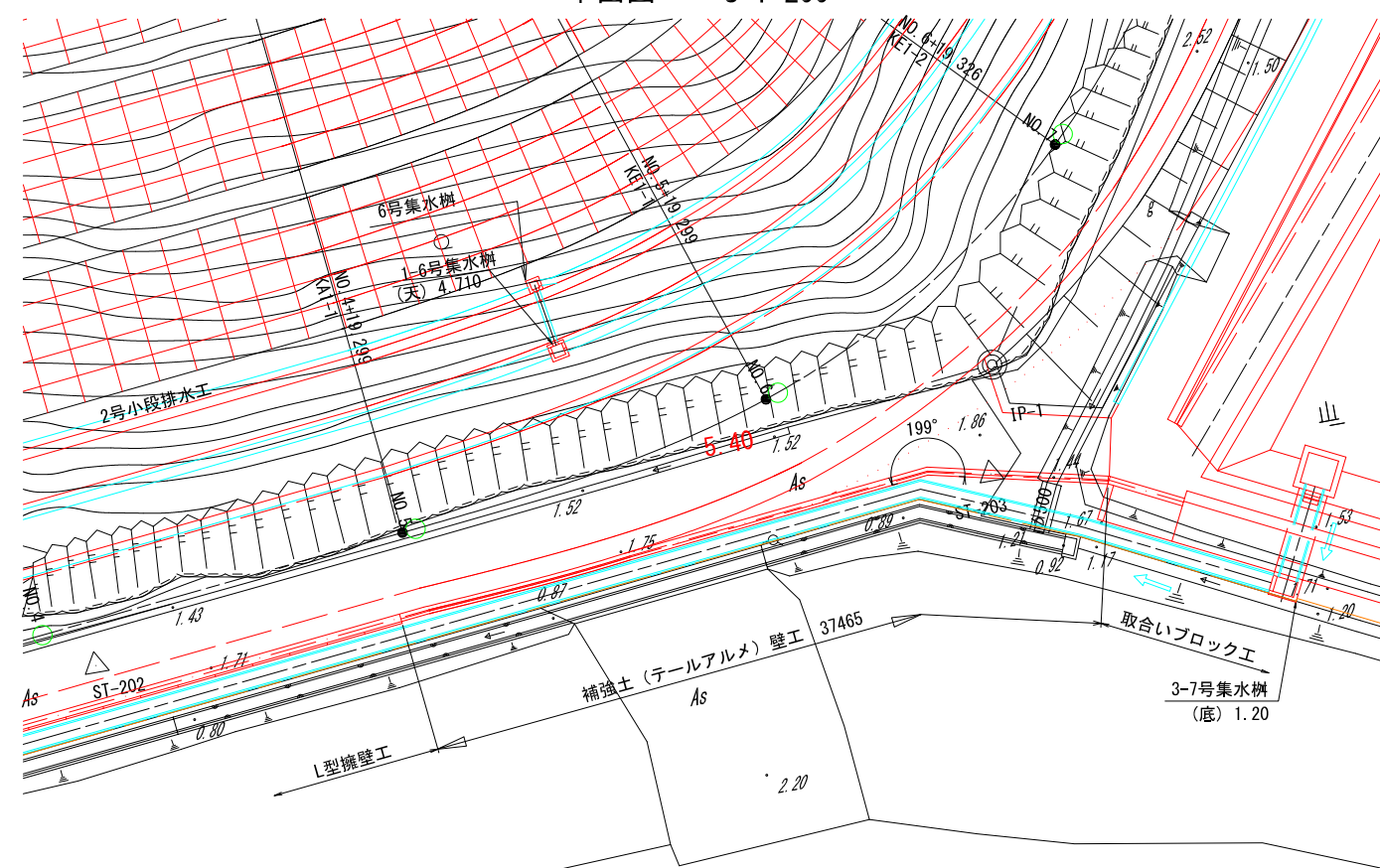


標準横断面図 S=1:100



※展開図の測点間距離は、平面図からの図測であり施工前に区間距離を再確認すること。
 ※施工前に補強土壁工の根入れ不足がないか確認をすること。
 根入れ不足が生じる場合は、計画の見直し等を含めて検討を行うこと。

平面図 S=1:200



設計条件

最大補強土高(最大部材高)	Hmax=4.32m (h=3.73m)	
盛土の性質	内的外的安定	$\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, c=0\text{kN/m}^2$
	全体安定	$\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, c=10\text{kN/m}^2$
土とストリップとの間の摩擦係数	$f^* = 1.5 \sim \tan 36^\circ$	
設計水平震度	内的安定検討	kh=0.14 (レベルⅡ, I種地盤, B地域)
	外的安定検討	kh=0.10 (補正係数 $\nu=0.7$)
	全体安定検討	kh=0.14
安全率	ストリップの引抜けに対し	常時 2.00 地震時 1.20
	鋼材の許容応力度	ストリップの引張りに対し 185N/mm ² ボルトのせん断力に対し 200N/mm ²
壁面材の設計基準強度	$f'_{ck}=35\text{N/mm}^2$	

特記

- 盛土材料は、次に示す [A1] もしくは [A2] 材料を使用することを原則とする。
 [A1] 細粒分の含有量が25%以下の土質材料。
 [A2] 岩石材料の寸法が250mmより大きい寸法の物を含まない硬岩ずりで、75mmふるい通過分中の細粒分の含有量が25%以下、かつ大小の寸法のもの適度に混合して締固めのしやすいもの。
 岩石材料を使用する場合には、スレーキング率が30%以下、かつ締固め後の細粒分の含有量が25%以下であることを確認しておく。
- 施工時に基礎地盤の地耐力が表記の地盤反力以上であるかの確認を行うこと。
- 現地盤及び掘削面に湧水(被圧地下水等)が確認できる場合には、別途対策を検討すること。
- 施工時に原地盤状況(地層分布、土質定数等)を確認し、想定外の地層分布を示す場合については、盛土全体における全体安定検討について再照査を行うこと。
- 盛土材定数は、施工前に確認を要すること。
- 地盤定数が不明なため、盛土材と同じ定数で検討を行う。
 土質調査より地盤定数が決定した場合、再度全体を含めた安定検討および支持力照査を行うこと。

設計条件(外的安定計算)

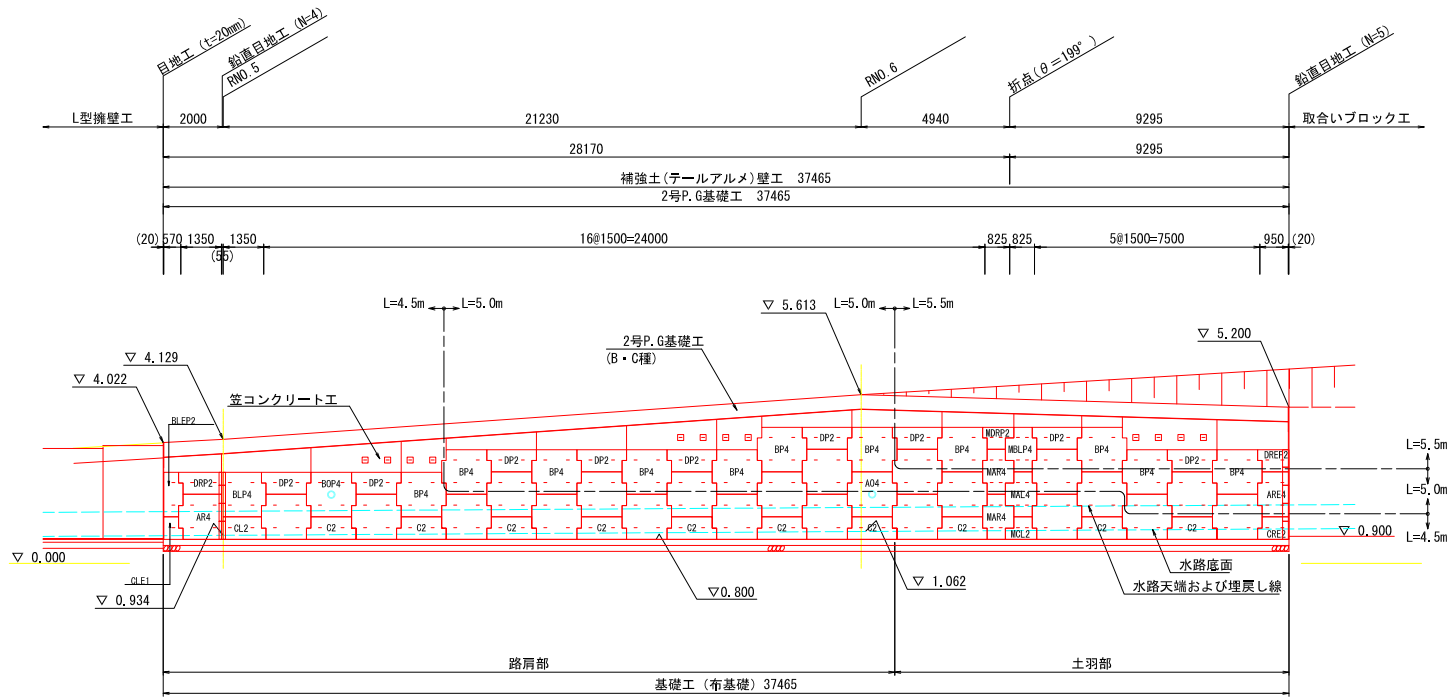
最大補強土高(最大部材高)	Hmax=4.32m (h=3.73m)	
最大地盤反力度	盛土直下	Na=124kN/m ²
	壁面直下	N=79kN/m ²
安全率	すべり破壊に対する	常時 1.20 地震時 1.00
	滑動に対する	1.50
	転倒に対する	L/6
	支持力に対する	L/3

※補強土壁工の設計基準は、補強土(テールアルメ)壁工設計・施工マニュアル、第4回改訂版平成26年8月(財)土木研究センターに準拠するものとする。

宿毛市			
工事種別	工事平成31年度 庁建 第1号	小深浦高台造成工事	
図面名称	2号補強土(テールアルメ)壁工一般図	縮尺	図示
路線河川名	小深浦高台整備		
工事箇所	高知県 宿毛市 小深浦		
設計種別	小深浦高台整備	図面番号	30
事務所名	宿毛市		85
会社名			

2号補強土(テールアルメ)壁工 展開図

正面展開図 S=1:100

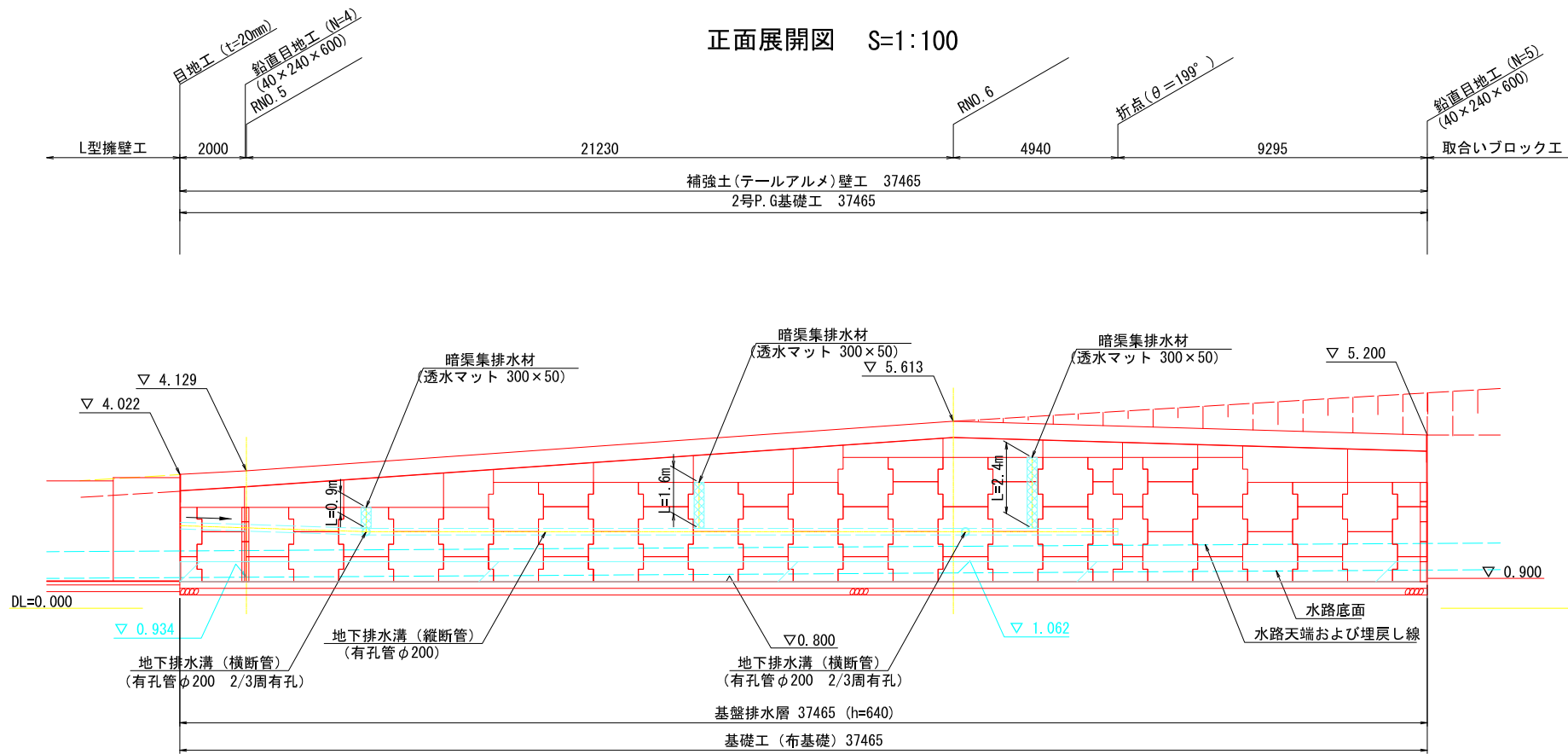


- 注記) 1. Lは、設計計算により決定したストリップ長(実行長)を示す。
 2. () 内寸法(鉛直目地工)については、壁面配置上の距離調整を目的としたものであり、施工時に同数値の再確認を行なうこと。
 3. 無印のスキンは、A4タイプを示す。
 4. 一印についてはストリップ(SM490 PL-60×4.0×L)の設置位置を示す。
 5. 口印のストリップは、笠コンクリート工に取付けた現場打設用コネクティブにストリップを設置する位置を示す。
 尚、ストリップ長は、Lとする。

宿毛市			
工事種別	平成31年度 庁建 第1号 小深浦高台造成工事		
図面名称	2号補強土(テールアルメ)壁工 展開図	縮尺	1:100
路線河川名	小深浦高台整備		
工事箇所	高知県 宿毛市 小深浦		
設計種別	実施設計図		
事務所名	宿毛市	図面号	31 85
会社名			

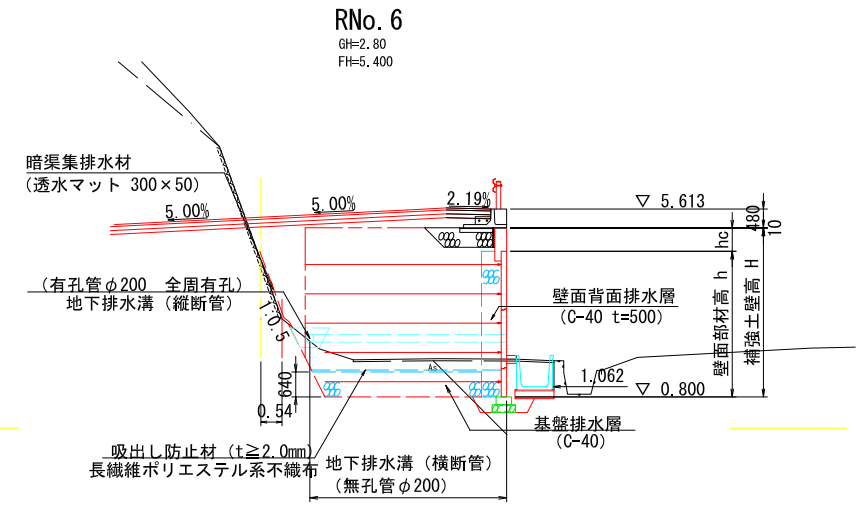
2号補強土(テールアルメ)壁工 排水工図

正面展開図 S=1:100

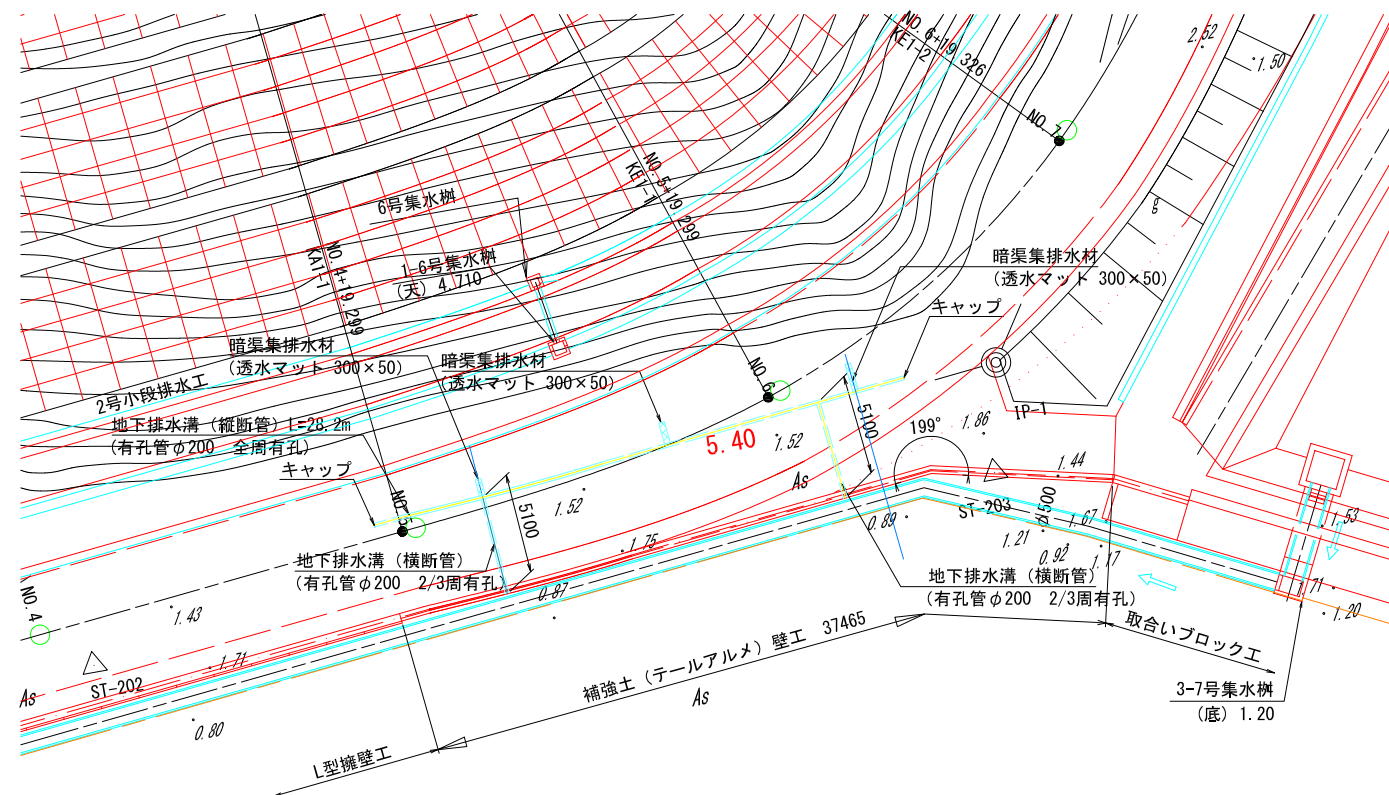


- 注記1. は、基盤排水層範囲を、 は地下排水工設置位置 は暗渠集排水材位置を示す。
- 地下排水工（縦断管）管勾配方向を示す。
 - 地下排水工及び暗渠集排水材の敷設位置については、施工時に現場状況及び地下水状況を確認の上、決定すること。尚、特に著しい湧水等が見られる場合には、排水工（鉛直）間隔の再検討を行なうこと。
 - 暗渠集排水材の規格については砕石層（500×500）と同等以上の排水能力を有するものとし、地下水及び湧水状況を確認の上決定すること。尚、設置区間は掘削面を基本とするが、現地状況に応じて適宜調整すること。（排水対策を要する区間に設置する。）
 - 横断管吐出し口前面は、洗戻防止対策を行なうこと。

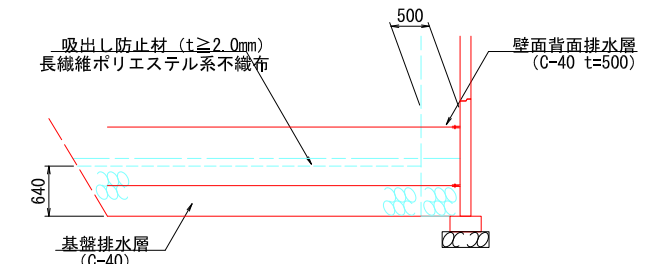
標準横断面図 S=1:100



平面図 S=1:200

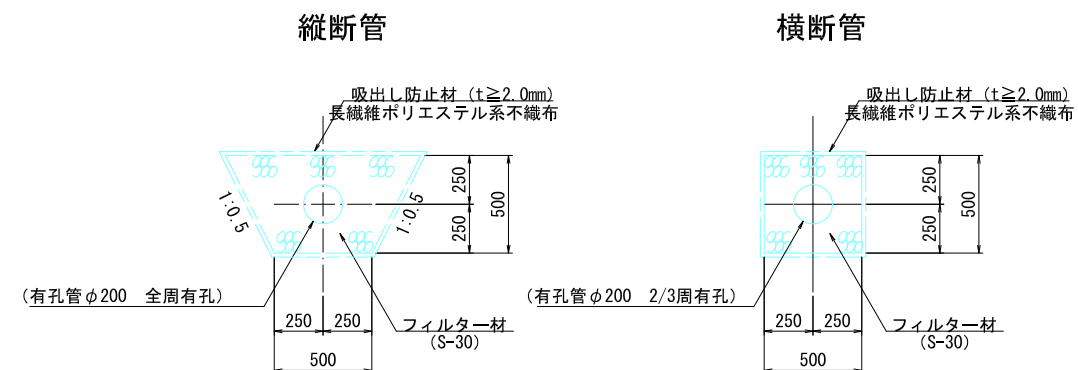


吸出し防止材設置図 S=1:50



注記1. 吸出し防止材については、壁背面より敷設すること。

地下排水溝詳細図 S=1:20

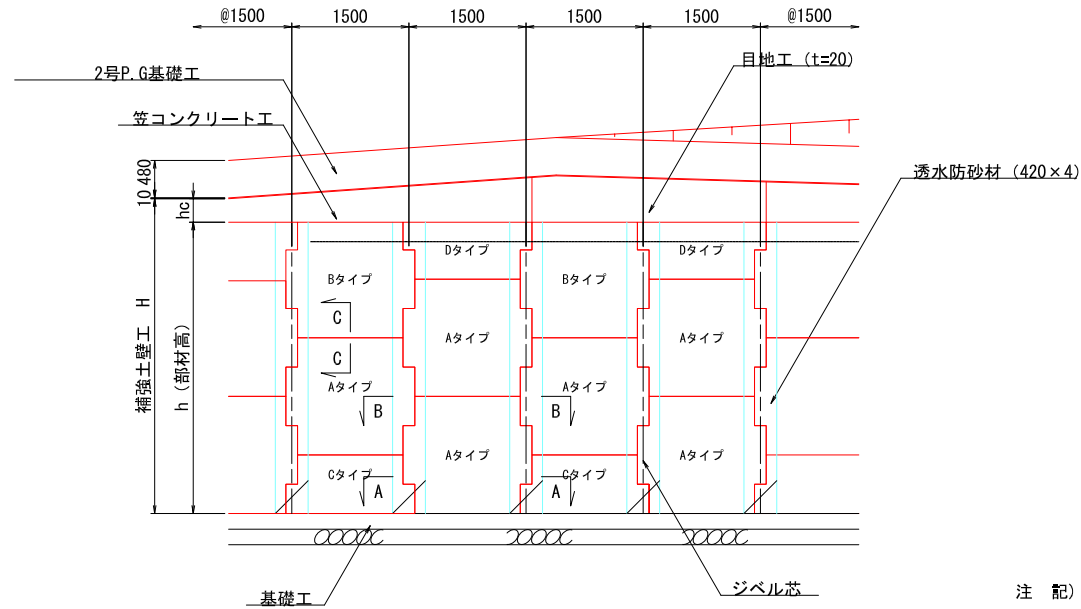


宿毛市			
工事種別	平成31年度 庁建 第1号 小深浦高台造成工事		
図面名称	2号補強土(テールアルメ)壁工 排水工図	縮尺	図示
路線河川名	小深浦高台整備		
工事箇所	高知県 宿毛市 小深浦		
設計種別	実施設計図	図面番号	32/85
事務所名	宿毛市		
会社名			

2号補強土（テールアルメ）壁工 詳細図

構造一般図(1)

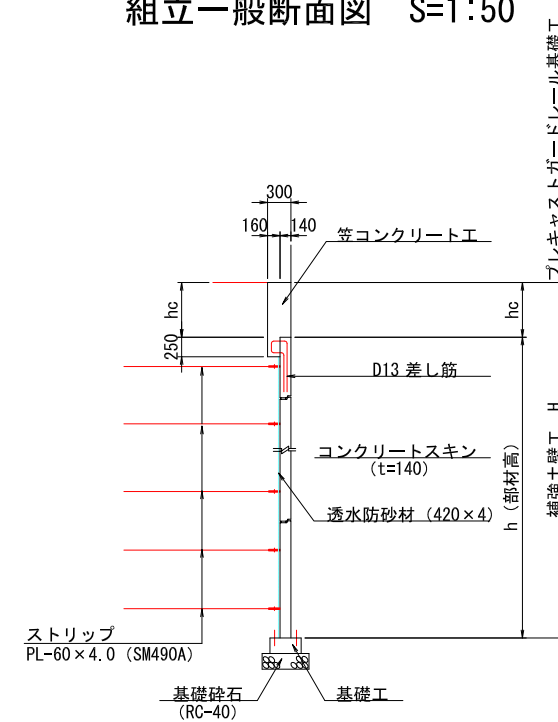
組立一般正面図 S=1:50



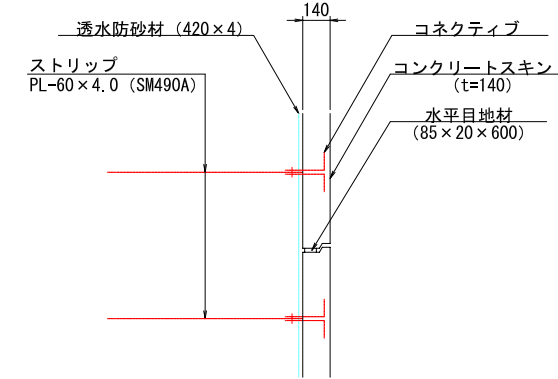
壁面タイプ	寸法
Aタイプ	1500 × 1500
Bタイプ	1500 × 1480
Cタイプ	1500 × 750
Dタイプ	1500 × 730
AR・ALタイプ	1350 × 1500
BR・BLタイプ	1350 × 1480
CR・CLタイプ	1350 × 750
DR・DLタイプ	1350 × 730

注 記) 1. 展開図の壁面材記号については、以下を参照とする。
 Pタイプ壁面材は、差し筋 (D13) 付を示す。
 Mタイプ壁面材は、マルチコーナースキンを示す。
 Eタイプ壁面材は、異形スキンを示す。
 Oタイプ壁面材は、孔開きスキンを示す。
 2. 各目地位置については展開図を参照とする。

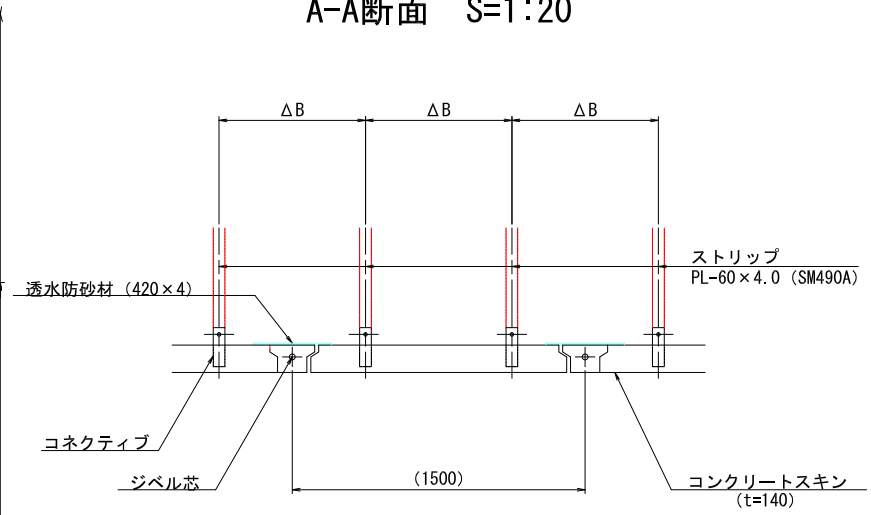
組立一般断面図 S=1:50



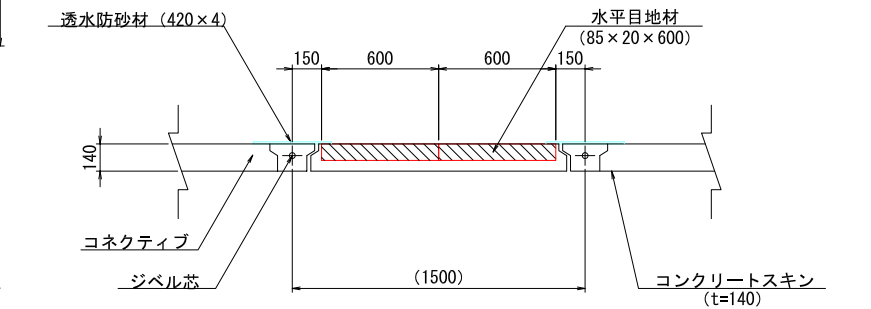
C-C断面 S=1:20



A-A断面 S=1:20



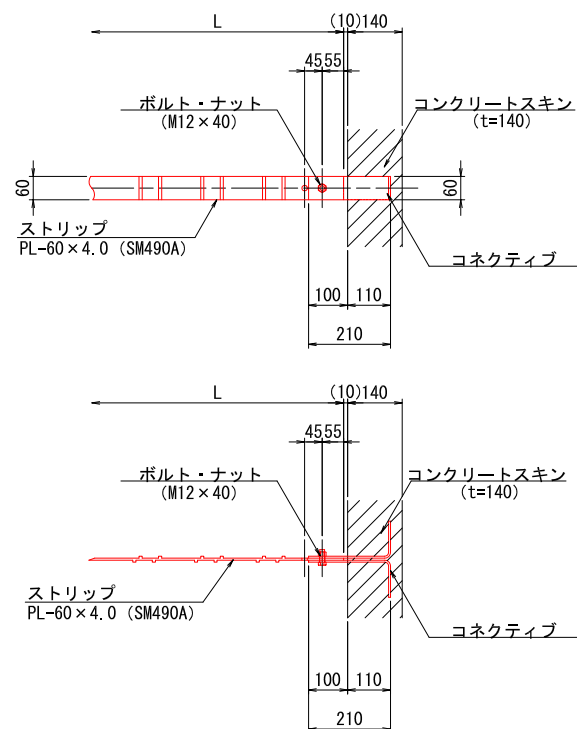
B-B断面 S=1:20



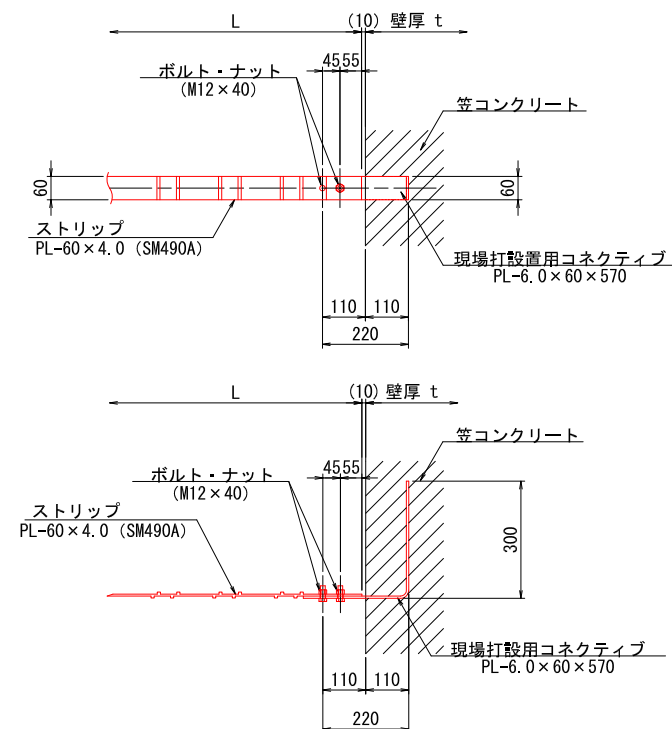
注 記) 1. 水平目地材は、目地1箇所当たり2枚を標準とする。
 2. 幅異形タイプ壁面材の水平目地材は、L ≤ 750mm 以下は1枚とする。

補強材取付詳細図 S=1:10

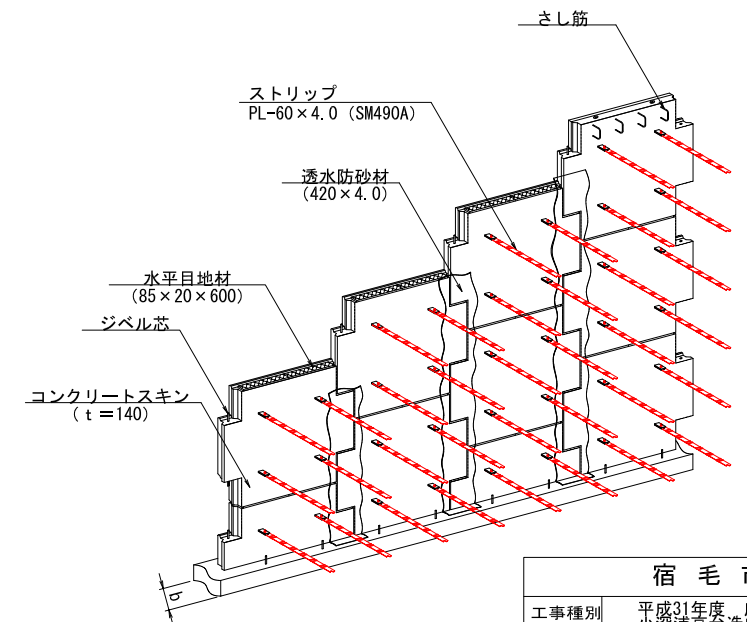
一般部 (L < 8.50m)



笠コンクリート部



組立一般図 S=Free

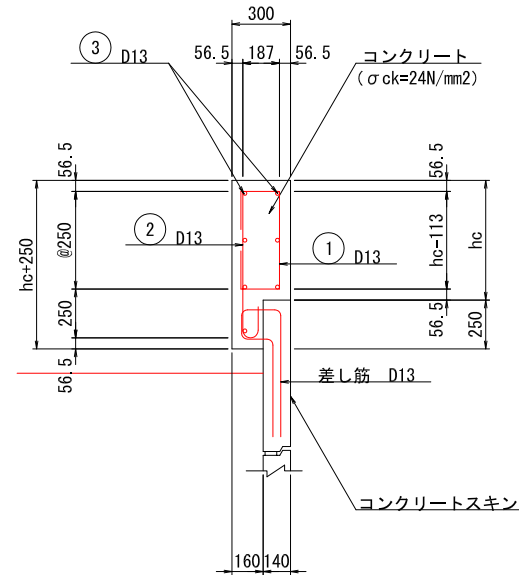
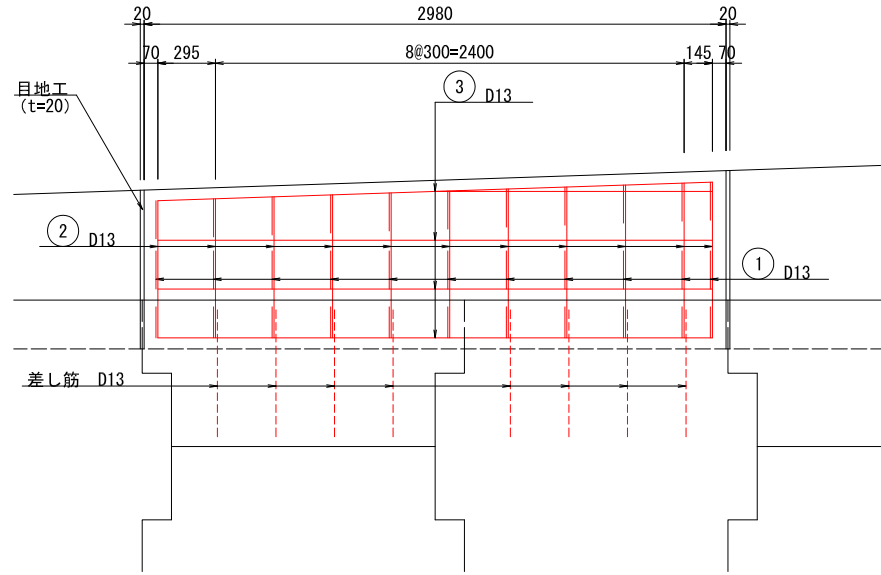


宿毛市			
工事種別	平成31年度 庁建 第1号 小深浦高台造成工事		
図面名称	2号補強土 (テールアルメ) 壁工 詳細図 構造一般図 (1)	縮尺	図示
路線河川名	小深浦高台整備		
工事箇所	高知県 宿毛市 小深浦		
設計種別	実施設計図	図面番号	33 / 85
事務所名	宿毛市	会社名	

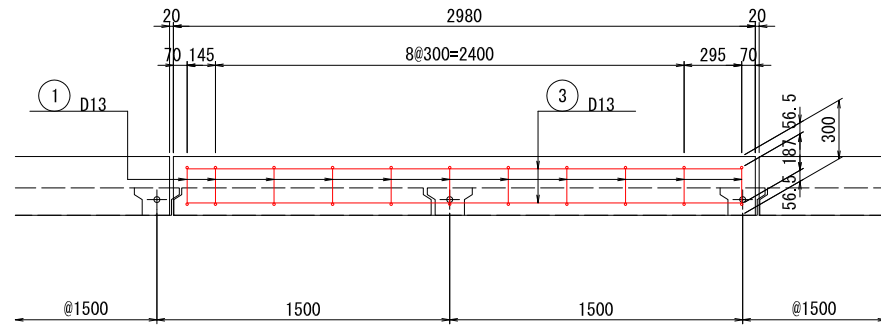
2号補強土（テールアルメ）壁工詳細図

構造一般図（2）

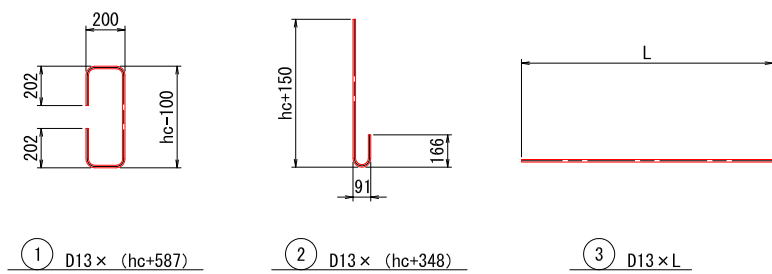
笠コンクリート工構造配筋一般図 S=1:20
正面図 断面図



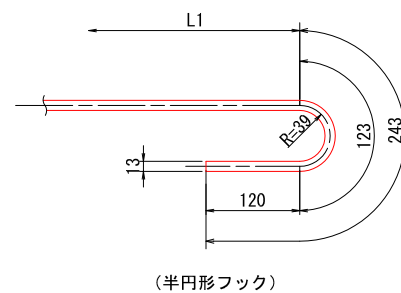
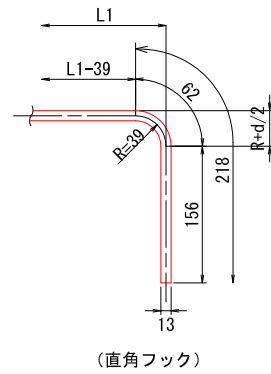
平面図



鉄筋加工図

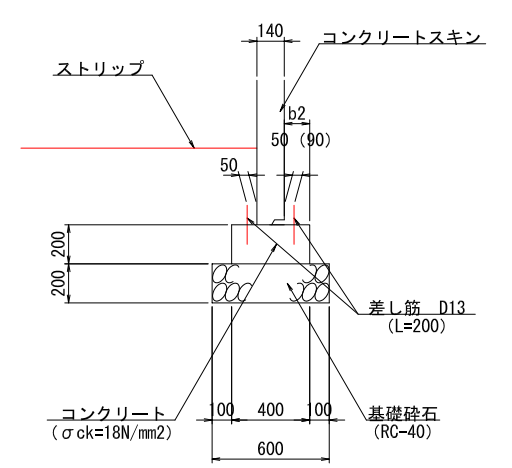
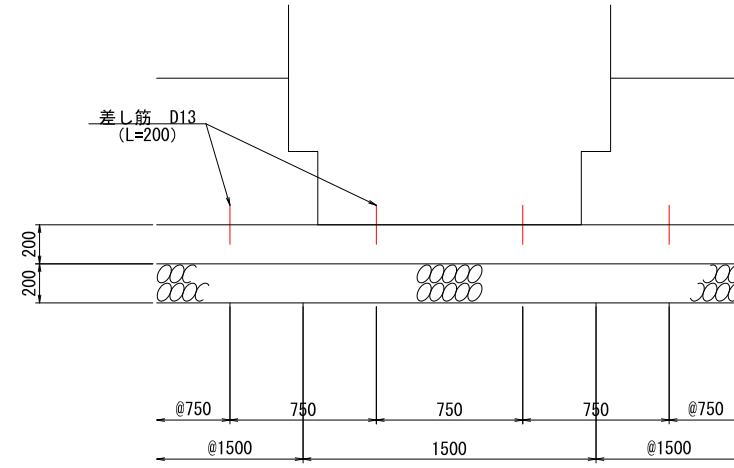


鉄筋曲げ加工図(参考図) S=1:5



注 記) 1. 鉄筋の規格: SD345

基礎工構造一般図 S=1:20
正面図 断面図



- 注 記)
1. 基礎工上面は、金コテにて整形すること。
 2. 差し筋位置については、スキン1枚あたり2組（4本）を基本とし、壁面材寸法（展開図参照）を確認の上、設置すること。
 3. 基礎下面が岩又は、改良工の場合は、基礎砕石を省くものとする。
 4. 異形スキン設置部は、スキン形状を考慮し、さし筋位置を適宜調整すること。
 5. コーナー部のさし筋位置については、別途詳細図参照。

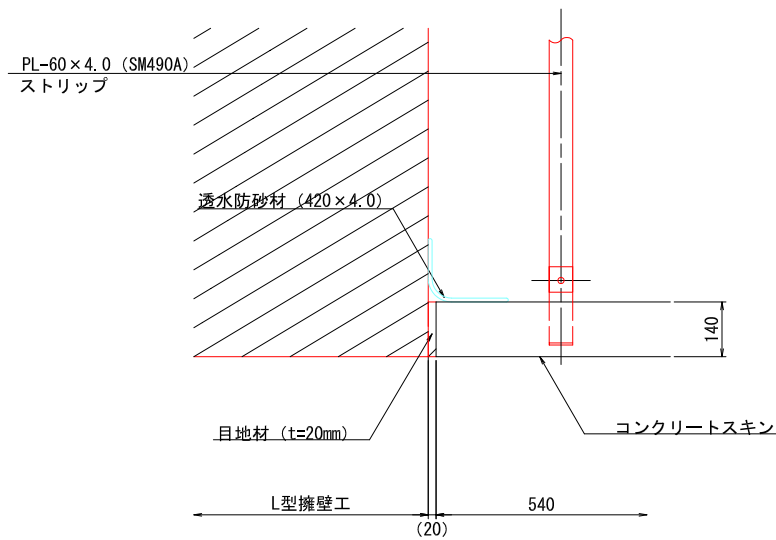
- 注 記)
1. () 内寸法は、デザインスキン使用時の差し筋位置を示す。
 2. スキンは、基礎中央に設定することを原則とする。

宿毛市			
工事種別	平成31年度 庁建 第1号 小深浦高台造成工事		
図面名称	2号補強土（テールアルメ）壁工詳細図 構造一般図（2）	縮尺	図示
路線河川名	小深浦高台整備		
工事箇所	高知県 宿毛市 小深浦		
設計種別	実施設計図	図面 番号	34 85
事務所名	宿毛市	会社名	

2号補強土（テールアルメ）壁工詳細図

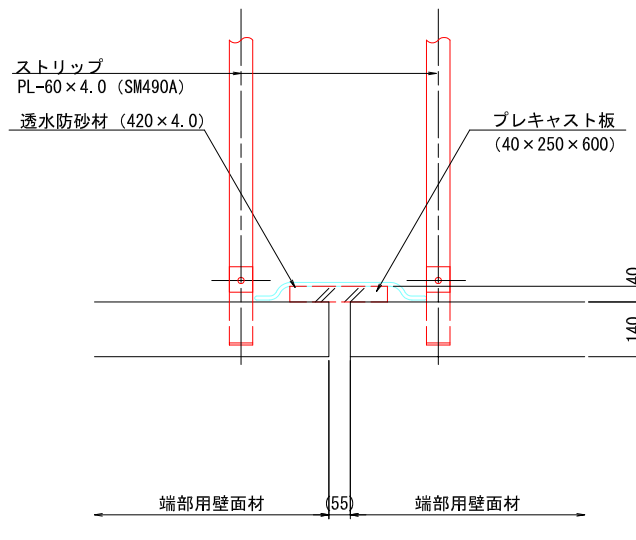
構造一般図（3）

目地工（伸縮目地） S=1:10



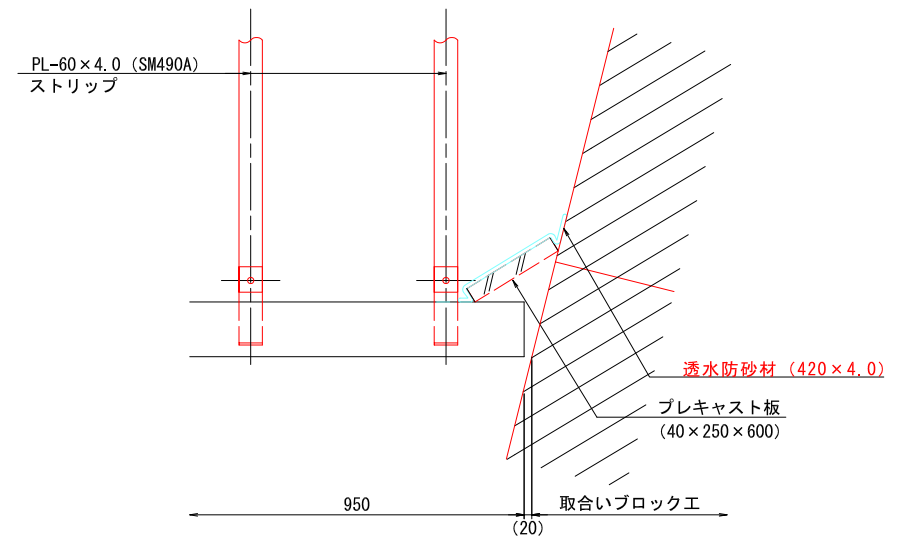
注 記) 1. () 内の寸法は現地合わせとする。

鉛直目地工 S=1:10



注 記) 1. () 内の寸法は現地合わせとする。

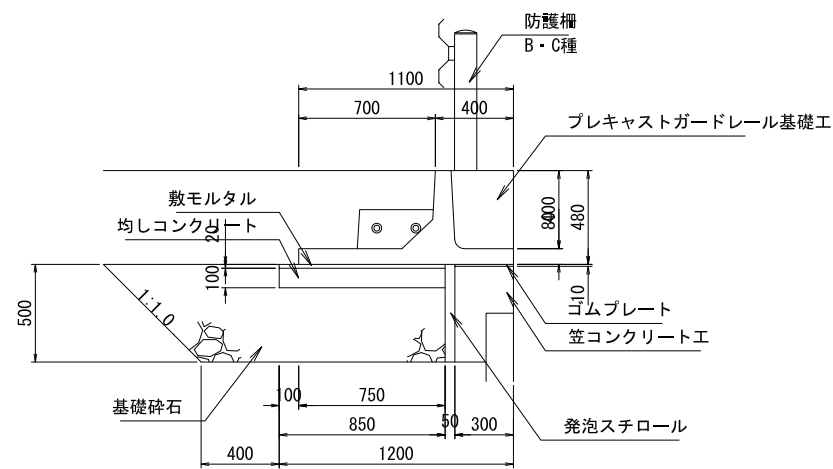
PL-60x4.0 (SM490A) ストリップ



注 記) 1. () 内の寸法は現地合わせとする。

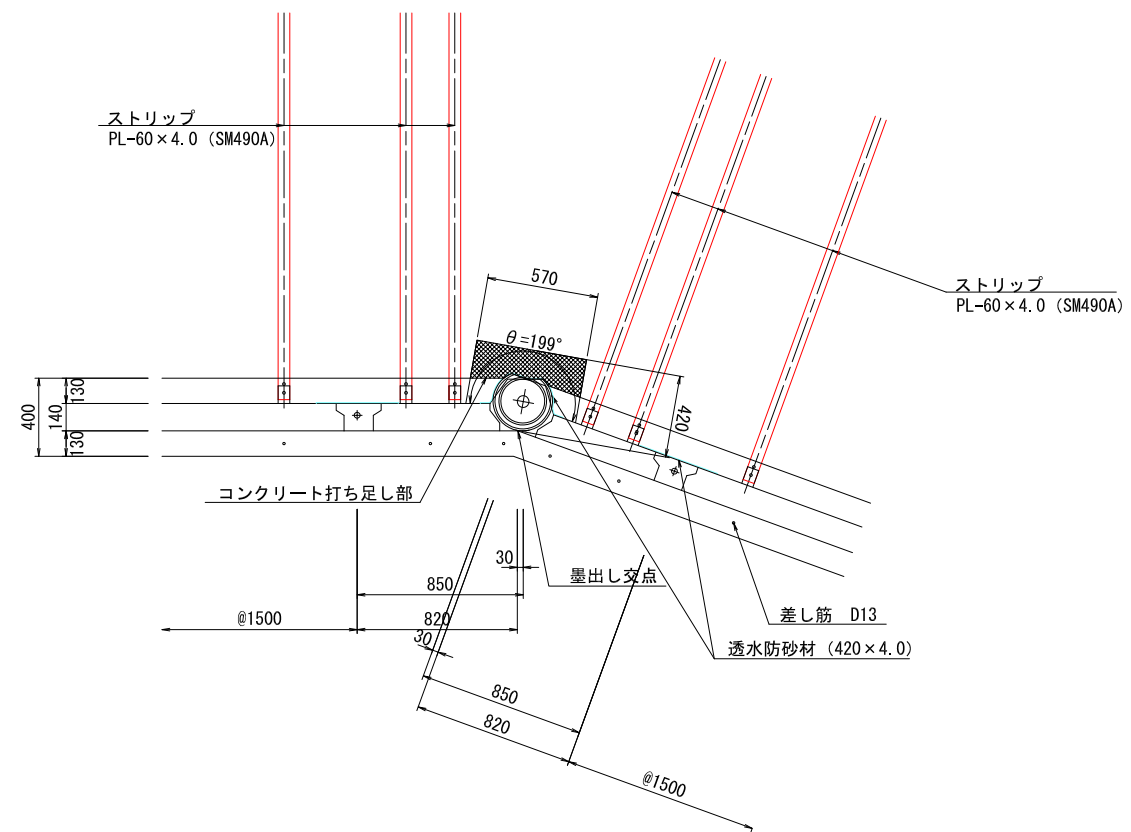
2号P.G基礎工

S=1:20



※プレキャストガードレール基礎工は連結延長を確認の上、安定検討を実行して形状を決定すること。

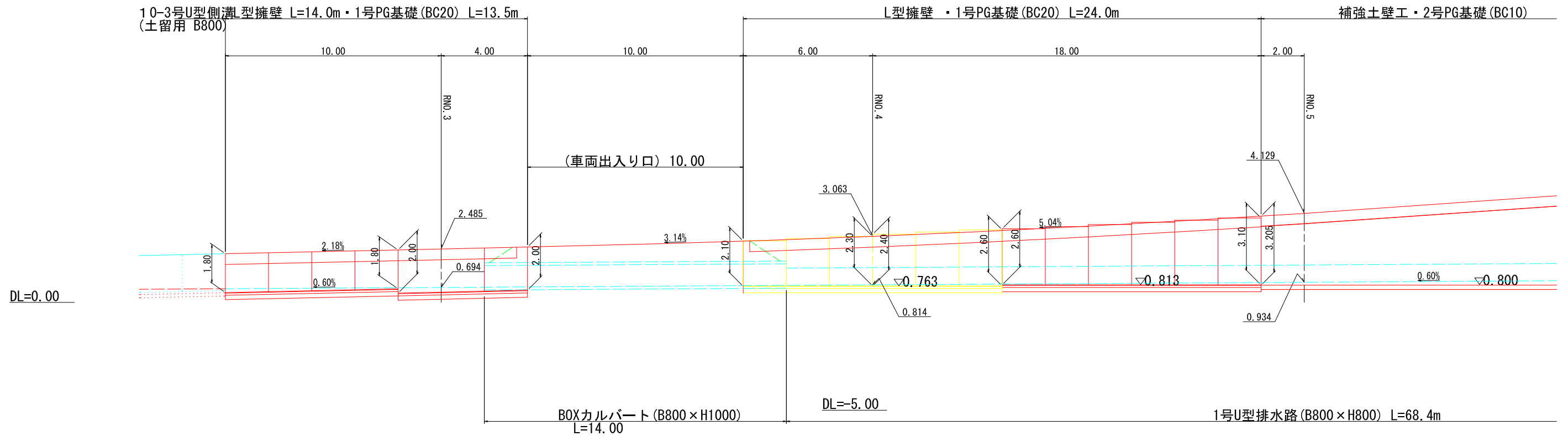
屈曲部詳細図 S=1:20
($\theta=199^\circ$)



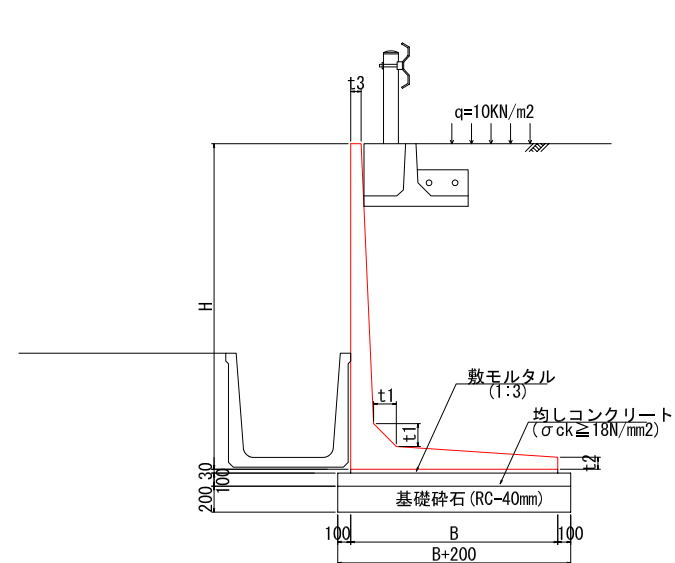
注 記) 1. コーナースキンに設置する透水防砂材は2枚を重ね合わせて敷設すること。

宿毛市			
工事種別	平成31年度 庁建 第1号	小深浦高台造成工事	
図面名称	2号補強土（テールアルメ）壁工詳細図	縮尺	図示
路線河川名	小深浦高台整備		
工事箇所	高知県 宿毛市 小深浦		
設計種別	実施設計図	図面	35
事務所名	宿毛市	番号	85
会社名			

路側擁壁工展開図 S=1:100



L型擁壁工 S=1:30



設計条件 (標準設計での呼称: C1)
 裏込土 礫質土 ($\gamma=20\text{KN/m}^2, \phi=35^\circ, C=0$)
 底面摩擦係数 $\mu=0.6$
 許容支持力度 $q_a=300\text{KN/m}^2$

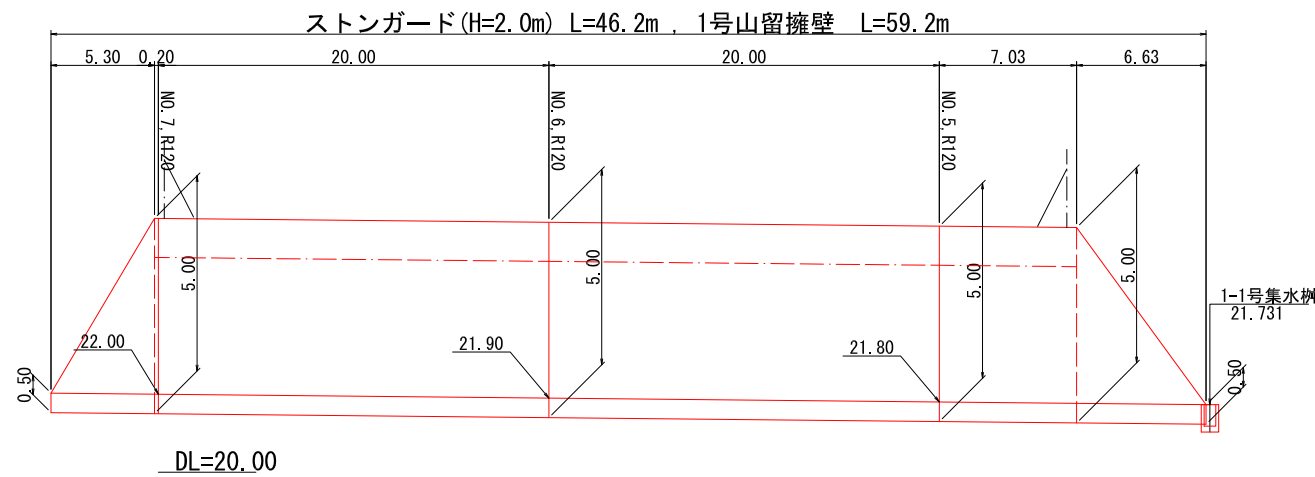
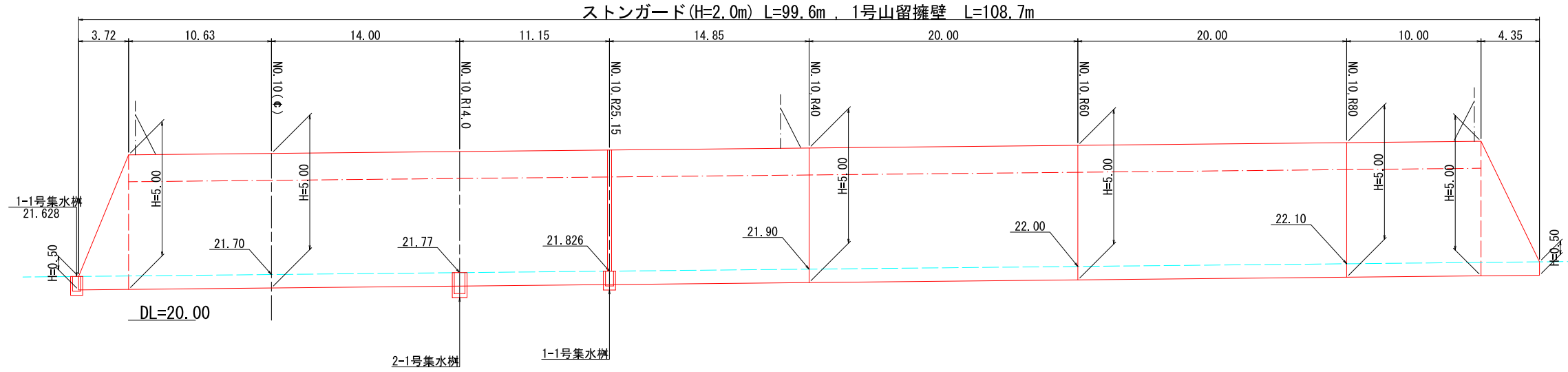
H	B	寸法 (mm)			数量 (10.0m当り)				備考
		t1	t2	t3	L型擁壁 (基礎モルタル)	均しコンクリート	均し型枠	基礎砕石	
1800				88					
1900	1330	150	88	84	5.00	0.40	1.53	2.00	15.30
2000				80					
2100				96					
2200				92					
2300	1590	175	92	88	5.00	0.48	1.79	2.00	17.90
2400				84					
2500				80					
2600				101					
2700				96					
2800	1860	225	97	91	5.00	0.56	2.06	2.00	20.60
2900				85					
3000				80					
3100	2120	250	100	101	5.00	0.64	2.32	2.00	23.20

L型擁壁工数量集計

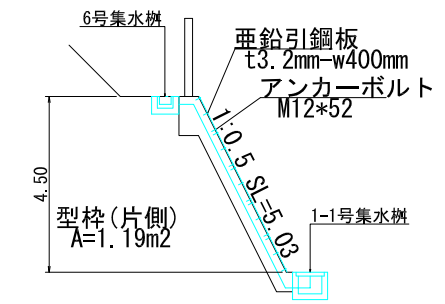
プレキャストL型擁壁 = 38m
 (H1800×B1330) = 8.0m
 (H2000×B1330) = 6.0m
 (H2100×B1590) = 2.0m
 (H2200×B1590) = 2.0m
 (H2300×B1590) = 2.0m
 (H2400×B1590) = 2.0m
 (H2500×B1590) = 2.0m
 (H2600×B1860) = 4.0m
 (H2700×B1860) = 2.0m
 (H2800×B1860) = 2.0m
 (H2900×B1860) = 2.0m
 (H3000×B1860) = 2.0m
 (H3100×B2120) = 2.0m

宿毛市			
工事種別	平成31年度 庁建 第1号 小深浦高台造成工事		
図面名称	路側擁壁工詳細図	縮尺	図示
路線河川名	小深浦高台整備		
工事箇所	高知県 宿毛市 小深浦		
設計種別	実施設計図		
事務所名	宿毛市	図面番号	36/85
会社名			

1号山留擁壁工展開図 $V=1:100$ $H=1:200$



縦排水工 (B300×H200)
S=1:50

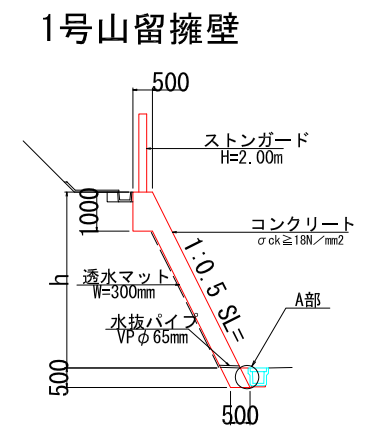


垂鉛引鋼板1.0m当り数量

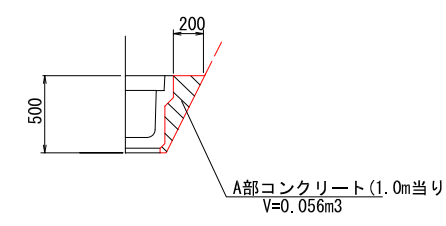
種別	単位	数量
鋼板	kg	10.05
アンカーボルト	本	6.0

1ヶ所当り数量

種別	単位	数量
型枠	m ²	2.38
垂鉛引鋼板	m	5.03



A部詳細図 S=1:25



擁壁工
1号山留擁壁(H0.5~5.0m) L= 108.7+59.2 = 167.9m
防護柵工
ストーンガード(H2.0m) L= 99.6 + 46.2 = 145.8m
中間支柱(H2.0m) N= 32.0 + 15.0 = 47.0本
端末支柱(H2.0m) N= 3.0 + 2.0 + 5.0本

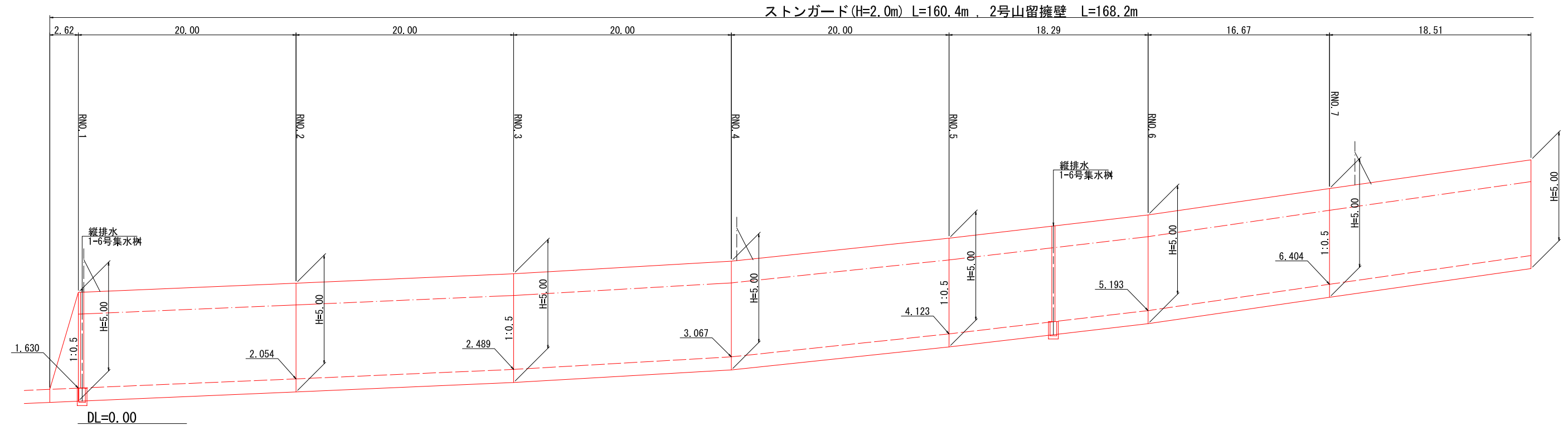
1号山留擁壁

(1.0m当り数量)

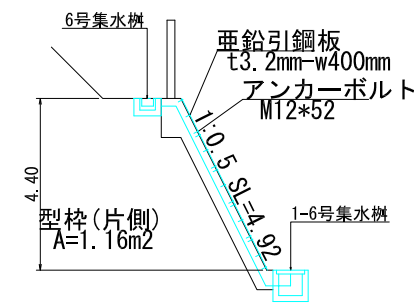
H	h	SL	コンクリート (m ³)	型枠 (m ²)	目地材 (m ²)	透水マット (m)	足場工 (掛m ²)	備考
0.50	---	---	0.31	---	0.03	---	---	ストーンガード 基礎無し
5.00	4.50	5.031	2.56	5.03	0.26	3.91	5.03	"
5.00	4.50	5.031	2.81	5.03	0.28	3.91	5.03	

宿毛市			
工事種別	平成31年度 庁建 第1号 小深浦高台造成工事		
図面名称	1号山留擁壁工詳細図	縮尺	図示
路線河川名	小深浦高台整備		
工事箇所	高知県 宿毛市 小深浦		
設計種別	実施設計図	図面番号	37/85
事務所名	宿毛市	会社名	

2号山留擁壁工展開図 1/200



縦排水工 (B300×H200)
S=1:50



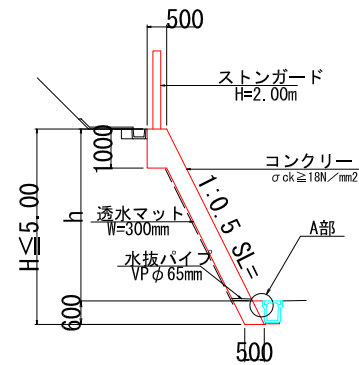
亜鉛引鋼板1.0m当り数量

種別	単位	数量
鋼板	kg	10.05
アンカーボルト	本	6.0

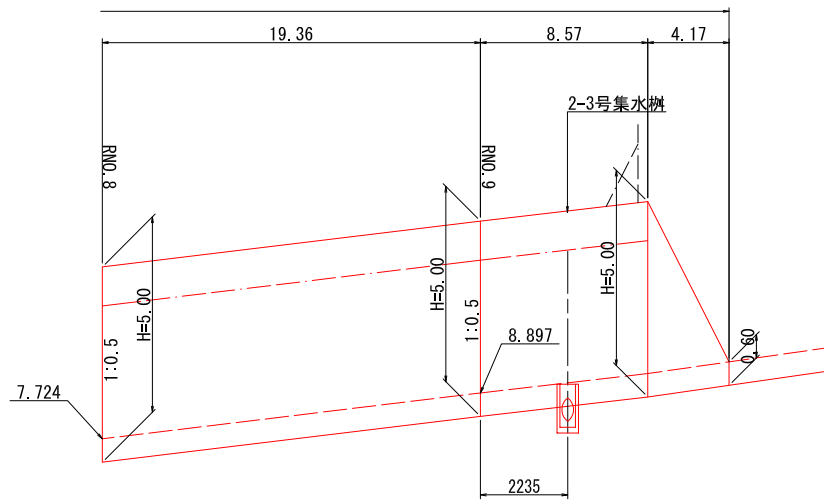
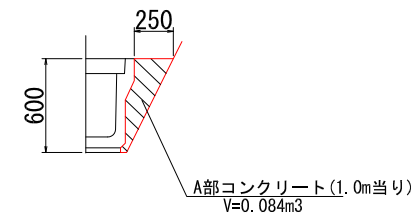
1ヶ所当り数量

種別	単位	数量
型枠	m ²	2.32
亜鉛引鋼板	m	4.92

2号山留擁壁



A部詳細図 S=1:25



DL=0.00

2号山留擁壁

(1.0m当り数量)

H	h	SL	コンクリート (m ³)	型枠 (m ²)	目地材 (m ²)	透水マット (m)	足場工 (掛m ²)	備考
0.60	---	---	0.38	---	0.04	---	---	ストーンガード基礎無し
5.00	4.40	4.919	2.58	4.92	0.26	3.80	4.92	"
5.00	4.40	4.919	2.83	4.92	0.28	3.80	4.92	

擁壁工

2号山留擁壁 (H0.6~5.0m) L= 168.2m

防護柵工

ストーンガード (H2.0m) L= 160.4m

中間支柱 (H2.0m) N= 51.0本

端末支柱 (H2.0m) N= 4.0本

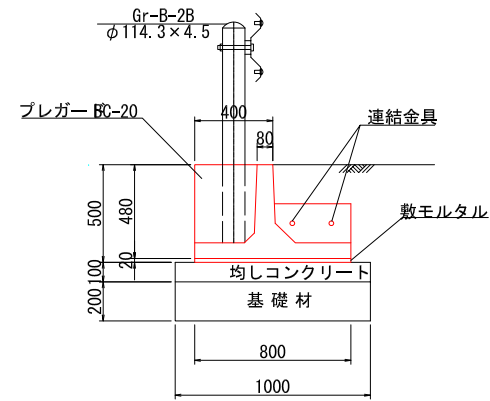
縦排水工

(B300×H200) N=2.0箇所

宿毛市			
工事種別	平成31年度 庁建 第1号 小深浦高台造成工事		
図面名称	2号山留擁壁工詳細図	縮尺	図示
路線河川名	小深浦高台整備		
工事箇所	高知県 宿毛市 小深浦		
設計種別	実施設計図	図面番号	38/85
事務所名	宿毛市		
会社名			

1号PG基礎

S=1:20

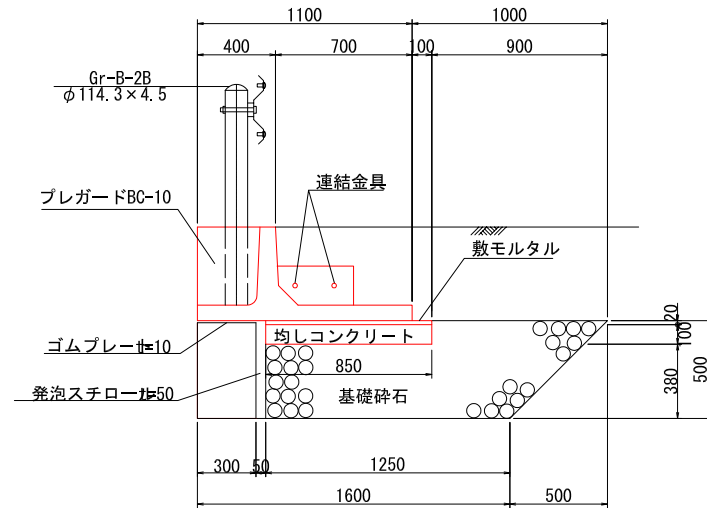


材料表 (10.0m当り)

名称	単位	数量	摘要
プレキャストガードレール基礎ブロック	個	5.00	BC-20
間詰コンクリート	m ³	0.08	$\sigma_{ck}=24N/mm^2$
間詰型枠	m ²	0.21	
敷モルタル	m ³	0.16	1:3
均しコンクリート	m ³	1.00	$\sigma_{ck}=18N/mm^2$
均しコン型枠	m ²	2.00	
基礎碎石	m ²	10.00	RC-40mm, t=200mm
目地材	m ²	0.10	t=10mm

2号PG基礎

S=1:20

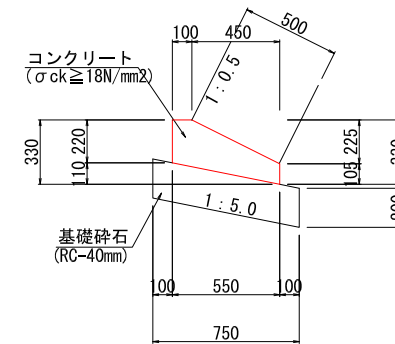


材料表 (10.0m当り)

名称	単位	数量	摘要
プレキャストガードレール基礎ブロック	個	5.00	BC-10
間詰コンクリート	m ³	0.09	$\sigma_{ck}=24N/mm^2$
間詰型枠	m ²	0.22	
敷モルタル	m ³	0.17	1:3
均しコンクリート	m ³	0.85	$\sigma_{ck}=18N/mm^2$
均しコン型枠	m ²	1.00	
基礎碎石	m ²	15.00	RC-40mm, t=40mm (平均厚)
目地材	m ²	0.09	t=10mm
発砲スチロール	m ²	5.00	ビーズ法ポリスチレンフォーム t=50mm
ゴムプレート	m ²	3.00	緩衝ゴム t=10mm

ブロック基礎

S=1:20



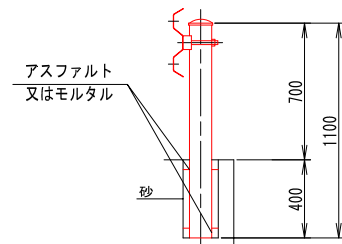
材料表 (10.0m当り)

名称	単位	数量	摘要
コンクリート	m ³	1.01	$\sigma_{ck} \geq 18N/mm^2$
型枠	m ²	3.25	
基礎碎石	m ²	7.50	t=200, 40mm以下
目地材	m ²	0.10	t=10mm

1号ガードレール

S=1:20

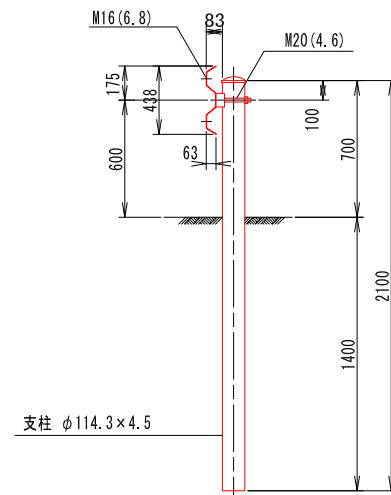
(構造物用)
Gr-B-2B



2号ガードレール

S=1:20

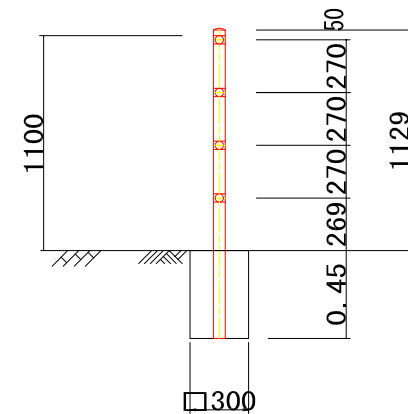
(土中用)
Gr-B-4E



1号ガードパイプ

S=1:20

基礎ブロック用(支柱ピッチL3.0m)

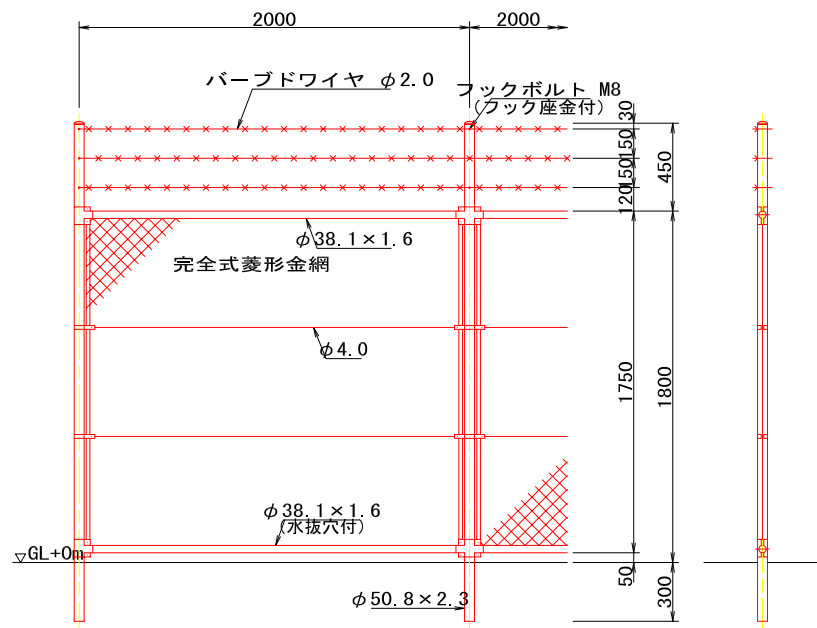


材料表 (1.0箇所当り)

名称	単位	数量	摘要
ブロック	個	1.00	
人力床堀	m ³	0.04	

宿毛市			
工事種別	平成31年度 庁建 第1号 小深浦高台造成工事		
図面名称	構造図(防護柵工1)	縮尺	図示
路線河川名	小深浦高台整備		
工事箇所	高知県 宿毛市 小深浦		
設計種別	実施設計図	図面 番号	39 85
事務所名	宿毛市		
会社名			

ガードフェンス (H1800;直忍付) 20

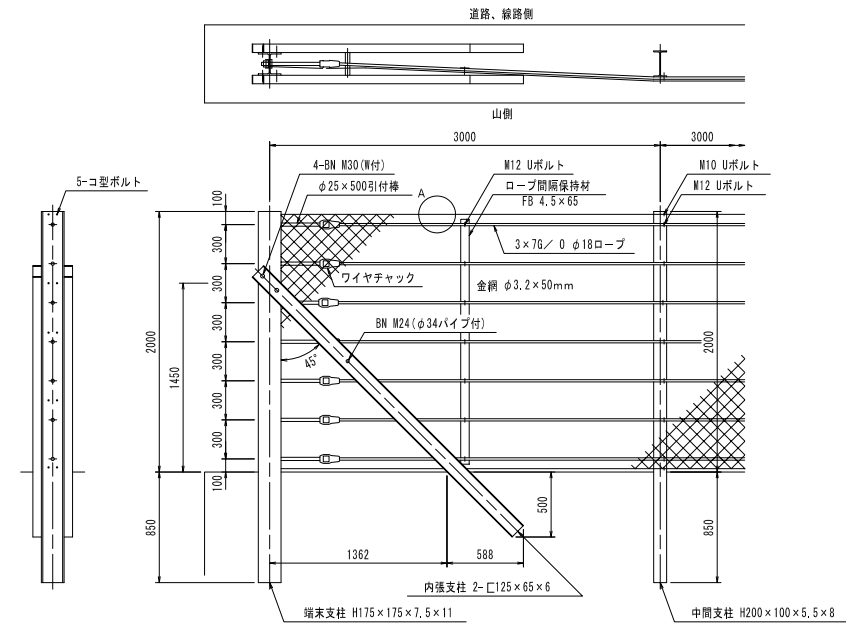


設計条件
 設計荷重・・・昭和57年改正の建築基準法・同施行令に基づく風圧力に依る。
 基礎条件・・・長期許容地耐力 98kN/m² (10t/m²)

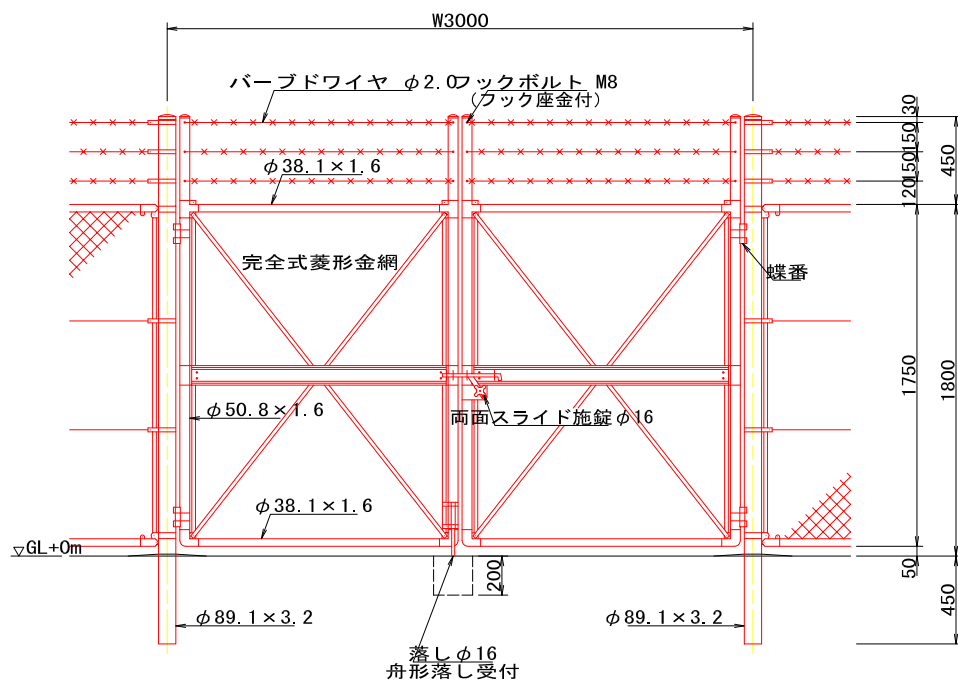
備考
 1. 外装は金網類及びバーブワイヤを除く他は、溶融亜鉛めっきとする。
 2. 本柵の金網規格は下記の通りとする。
 φ2.6×4.0mm、φ2.6×5.6mm
 φ3.2×5.0mm、φ3.2×5.6mm

ストーンガード

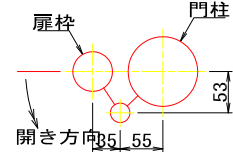
S=1:30



ガードフェンス (両開き門扉 H1800×W3000;直忍付)



門柱・扉枠位置関係図

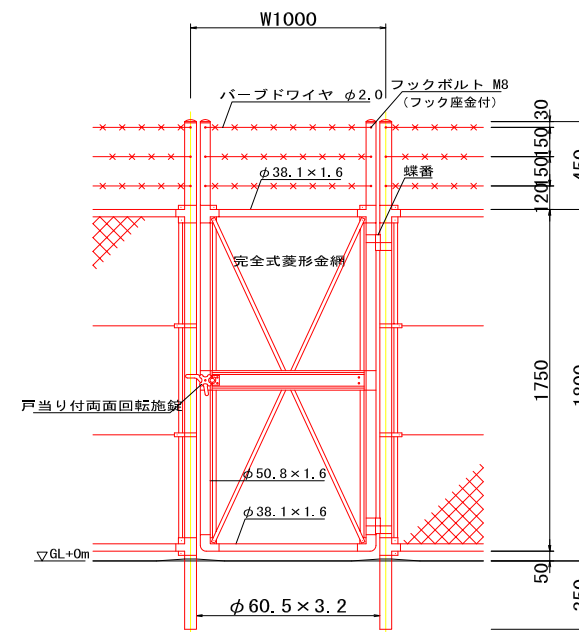


設計条件
 設計荷重・・・昭和57年改正の建築基準法・同施行令に基づく風圧力に依る。
 基礎条件・・・長期許容地耐力 98kN/m² (10t/m²)

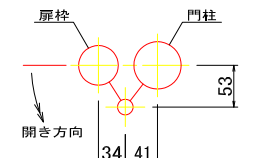
備考
 1. 外装は金網類及びバーブワイヤを除く他は、溶融亜鉛めっきとする。
 2. 本図門扉は片側180°開きとする。

ガードフェンス (片開き門扉 H1800×W1000;直忍付)

S=1:20



門柱・扉枠位置関係図



設計条件
 設計荷重・・・昭和57年改正の建築基準法・同施行令に基づく風圧力に依る。
 基礎条件・・・長期許容地耐力 98kN/m² (10t/m²)

備考
 1. 外装は金網類及びバーブワイヤを除く他は、溶融亜鉛めっきとする。
 2. 本図門扉は片側180°開きとする。

⚠ 注意
 ・施錠門柱の扉開き側に障害物(兼用フェンス、壁など)を有する場合には、両面回転施錠の戸当りが障害物と干渉するため、開き方向の変更が必要です。

宿毛市			
工事種別	平成31年度 庁建 第1号 小深浦高台造成工事		
図面名称	構造図(防護柵工2)	縮尺	図示
路線河川名	小深浦高台整備		
工事箇所	高知県 宿毛市 小深浦		
設計種別	実施設計図	図面番号	40/85
事務所名	宿毛市	会社名	